

市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙

広報とめ
トゥー・ミー

To Me

12

Dec 2020
Vol.307



【ときめき人】
登米総合産業高機械工作部

【特集・今月の表紙】

もくもく、と生きる。



もくもくと生きる。

大きな岐路

「もくもく」の愛称で親しまれ、登米市林業振興のシンボリック的存在である道の駅津山「もくもくランド」。今、その「もくもくランド」の存在価値が問われています。

三陸沿岸道路(三陸道)の延伸により、もくもくランドの通過交通量が激減。それに比例して、客数や売上額も減少を続けています。また、店の顔ともいえる木工芸品を製作する職人の後継者不足も深刻化。さらに追い打ちをかけるように、令和元年東日本台風が施設に甚大な被害を及ぼし、今もなお、多くの人たちが復旧・復興に向けて尽力しています。

大きな岐路に立っている「もくもくランド」の存在価値と旧津山町から続く歴史、そして未来の姿を、さまざまな人たちの思いをつづりながら考えます。

木の性質を見極めながら、黙々と商品作りに取り組む木工職人



●実は林業も盛んな登米

農林水産省が毎年公表している農業産出額が、青森県弘前市に次ぎ東北第2位を誇り、コメや畜産などを中心に農業が盛んな本市ですが、実は林業も盛んなまちです。

登米市は、市東部の津山、登米、東和地域に豊かな森林が広がっており、市全体の約4割を森林面積が占めています。建材を生産するために植林された人工林の割合は70%と、県平均の54%を大きく上回っています。

●東京五輪に認証材供給

本市では、森林の適切な管理・経営を推進するため、国際認証「FSC森林管理認証」を取得しています。

森林経営管理の国際認証を取得しているのは県内では隣の南三陸町と本市だけです。市有林を含めた森林の認証面積は約9200㏎と県内で、認証材の一大産地となっています。

こうした取り組みにより、2020東京オリンピック・パラリンピックで、選手の交流エリアとして東京・晴海に整備された「選手村ビレッジプラザ」の建材に、県内で唯一、本市の認証材が使用されています。

●「森の町」で朝ドラ舞台

2021年春から放送予定のNHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」で、本市が舞台の一つに。

「おかえりモネ」は本市と気仙沼市、東京都が舞台となる現代ドラマ。ヒロインの永浦百音が気象予報という天気にとことん向き合う仕事を通じて、人々に「幸せな未来」を届けていく希望の物語です。

本市は、ヒロインが「森の町・登米」で、林業や山林ガイドの見習いをしながら青春時代を過ごすという設定。この秋、市内各地でロケが行われました。

—特集CONTENTS—

第1章 危機

- 1 売上額減少と後継者不足
- 2 追い打ちをかけた台風被害
- 3 駆け付けた多くの思い

第2章 存在

- 1 私たちにとっての「もくもく」
- 2 「もくもく」と歩んだ道のり
- 3 木を生かす達人たち

第3章 未来

- 1 「もくもく」に描く未来
- 2 「もくもく」に懸ける夢
- 3 復旧、そして復興に向けて

売上激減で存続に危機感



津山産直事業協同組合
阿部 隆吉理事長

無人販売から始まった産直は、販売開始から35年以上たちますが、三陸道が延伸するたびに車の流れが変わり、売上が激減しています。出荷してくれる地元の農家や買いに来てくれる人たちのためにも営業を続けたいのですが、組合員の高齢化もあり、存続に危機感を持っています。

木工職人志す若者いない



津山木工芸品事業協同組合
佐々木 正志さん

かつて20人以上いた組合の木工職人も、今では7人になってしまいました。木工職人には、流れ作業で部品を作るのではなく、手間暇かけて一つの良い商品を作ることが求められます。血のつながりだけが後継者ではないのですが、地元を含め木工職人を志す若者がいないのが現実です。

台風とコロナ禍で客足減



食事処 木里口
西城 照江さん

三陸道が南三陸町に伸びるとともに客足が減っています。さらに昨年の台風で被災し、約30年続いた店舗の移転を余儀なくされました。仮オープンを経て客足が戻りつつあったところに、今度は新型コロナ。それでも観光客や地域の人が集う場所として、ここから活性化できないか考えています。

道の駅津山「もくもくランド」周辺地図



第1章

危機1

売上額減少と後継者不足

三陸道の延伸に伴う入込数と売上額の減少や木工芸品を作る木工職人の後継者不足はどのような状況なのでしょうか。

5年で売上半減。職人の平均年齢は約70歳



産業経済部
地域ビジネス支援課
しんすけ
櫻田 俊介主査

通過交通量が減り売り上げ減少

道の駅津山「もくもくランド」の観光客入込数と売上額は、ここ数年減少しており、厳しい状況が続いています。その大きな要因は、三陸沿岸道路(三陸道)の延伸によって通過交通量が激減したことです。

三陸道は東日本大震災からの復興道路に位置付けられ、宮城と青森を結ぶ自動車専用道路として、今も整備が進められています。三陸道の整備前までは、仙台方面から沿岸部の南三陸方面に向かうためには国道45号線を通るルートが一般的でした。その途中にあるもくもくランドは、中継地として大型バスなどが停車し、買い物や休憩に利用されていま

このような要因から、もくもくランドの通過交通量が減り、それに比例して観光客入込数と売上額も減っているのが現状です。

2015年度に37万人だったもくもくランドの観光客入込数は、19年度には半分以下の17万人にまで落ち込んでいます。観光客入込数の減少に伴い、15年度に1億2千万円ほどあった売上額も、19年度には6200万円ほどと約50%も減少しています。

新型コロナウイルスで厳しい状況に拍車

さらに、昨年の台風被害、そして昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、厳しい状況により拍車がかかっています。木工芸品の展示販売については、今まで営業していたもくもくハウスが台風で被災し使用できなくなったため、隣の物産館内で仮営業の状態が続いています。以前のように広いスペースで販売ができないため、大型の家具などを展示す

入込数、売上額推移



それが、仙台方面から本市を通り、沿岸部の南三陸、気仙沼方面に整備が進むにつれ、国道45号線を通らず、直接南三陸方面へ行けるようになりました。

一因になっています。新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた本年度上半期の売上額は2600万円ほど。月ごとの集計も、入込数、売上額ともに、全ての月で前年度よりも減少しています。新型コロナウィルス感染症の収束のめどが立っておらず、今後も厳しい状況が予想されます。

職人の後継者確保・育成が課題

そして、もくもくランドの「顔」である木工芸品を製作する木工職人の後継者不足も深刻化しています。木工職人は、かつて20人以上いた時もありましたが、現在、津山木工芸品事業協同組合に所属する職人は7人。さらに、高齢化も進んでおり、最年長の職人は72歳。一番若い人でも63歳、平均年齢も69歳という状況です。これからのように、木工職人の後継者を確保・育成していくのが大きな課題になっています。

令和元年東日本台風

●被害額36億6千万円

2019年10月に日本へ上陸した台風19号は日本各地に大きな被害をもたらしました。本市でも12日から13日にかけて豪雨に見舞われ、1人が亡くなったほか、2人が負傷。住家についても床上浸水101棟を含め343棟が被害を受けました。

市東北部の津山、登米、東和地域を中心に市内各地で土砂崩れが発生、道路や農地も大きな被害を受けました。被害総額は市全体で36億6千万円に上りました。

●過去最高の雨量計測

津山地域では、時間雨量で最大69ミリの計測(深畑観測所)。降り始めからの積算雨量は、観測史上最大の372ミリの計測(宮田観測所)しました。

山から流れ込んだ雨水と南沢川の氾濫により、津山地域だけで70棟の住家が床上浸水の被害に遭いました。同地区では、2009年の台風18号でも床上浸水などの大きな被害を受けましたが、今回はそれを上回る甚大な被害となりました。

■雨量の状況(主な観測所)

地域	観測所	積算雨量 (ミリ)	時間最大 (ミリ)
迫	迫町	261.0	43.0
登米	羽沢	257.0	42.5
東和	鱒淵	230.5	45.5
米山	米山	240.5	50.5
津山	深畑	277.5	69.0
	石貝	258.5	51.0
	野尻	326.0	48.0
	宮田	372.0	64.0

強い勢力の台風が接近していることはテレビで知っていましたが、まさかお店が床上浸水するまでの大雨になるとは思ってもみませんでした。お店が浸水したと聞いたのは台風が去った朝。深夜に水が入り、腰の辺りまで水が上がったようでした。もくもくランド前の国道も浸水したので、お店に入ることができたのは13日の午後です。駐車場から流木や稲わらを乗り越え、やつの思いでたどり着きました。店内で目にしたのは、商品が散乱し、棚の上まで泥だらけの惨状でしたが、翌日からボランティアの皆さんが来てくれたので、スタッフみんなが商品の洗浄や店内の清掃に取り掛かりました。

まさか床上浸水するなんてごみを乗り越え店内に入る



クラフトショップ
もくもくハウス店員
千葉 美和さん



12 令和元年東日本台風が去った翌朝。もくもくハウスが湖に浮かぶような光景。もくもくランド前の国道45号線が冠水。通行止めになり交通も遮断された。水が引いたあとの敷地内には、大量のごみや流木が建物内には商品などが散乱し、中に入ることすら困難な状態に。多くの商品や備品が浸水し、被害を受けた。もくもくランドの駐車場は台風が去った後もしばらくは冠水した状態が続いた(写真提供：浅井洋幸さん=迫町鉄砲丁=)



過去に例がない雨量で越水ひどい状況に胸裂ける思い



津山総合支所
市民課
佐々木 勝彦 課長

令和元年東日本台風に伴う豪雨は、津山出身の私でも記憶にないほどでした。雨は10月12日の夕方から降り続け、特にピーク時の午前0時前後は、時間雨量が3時間続けて50ミリの超えました。記録的豪雨で、周辺の山々から流れ込んだ大量の水が河川を満たし、もくもくランド北側の南沢川の堤防が初めて越水。流れ込んだ濁流が「もくもく」をはじめ、周辺を一気に飲み込みました。「もくもく」は、観光拠点が少ない津山に住む人の心のよりどころであり誇りでした。台風が去った後、その「もくもく」の悲惨な状況の前にぼうぜんと立ち尽くし、胸が張り裂ける思いでした。

第1章

危機2

追い打ちをかけた台風被害

昨年10月の令和元年東日本台風は、本市にも未曾有の大雨をもたらしました。もくもくランドも壊滅的な被害に。

児童がメッセージで応援



堺市立金岡南小学校
阿部 仁 教諭

授業で見た登米市PR動画「登米無双」を児童たちが気に入ったところから本校と登米市の交流が始まりました。

特に木工の達人として登場した西條駅長が児童たちのお気に入り。登米市職員が登米の特徴や魅力などをお話しに来てくれたこともあり、「もくもく」の被災を知った子どもたちが、自分たちにできることとして考えたのが応援メッセージを送ること。離れていても、大切な存在である登米市を少しでも勇気づけられたならうれしいです。



応援メッセージを掲げる児童たち

隣市として今後も連携を



栗原市
千葉 健司 市長

令和元年東日本台風では栗原市も大きな被害を受けましたが、岩手・宮城内陸地震の際に登米市から多くの支援をいただいたことから、何かできないかとすぐに熊谷市長に連絡し、職員を派遣しました。

栗原市は普段から「栗登一平」として、登米市、岩手県一関市、平泉町の4市町で観光や婚活事業などに連携して取り組んでいます。

連携は災害には特に重要です。今後も助け合い、支え合いながら、お互いが発展していけることを願っています。



現地で被災状況を確認する栗原市長

できることを考えて行動



津山中学校3年
西條 史哉 さん

昨年の台風直後、町が大変な状況の中、自分ができないことはないか考えていました。そんな時、もくもくランドで浸水の片付けが大変だという話を聞き、所属する剣道部のみんなにも声を掛けてボランティアに参加しました。僕たちは木工品を洗ったり店舗の泥出し作業をしたりしました。泥は重くて、出しても出しても無くなるので大変でしたが、お店の人たちから「ありがとう」と感謝された時は、とても充実した気持ちになりました。送り出してくれた親にも感謝しています。



生徒たちのボランティア活動の様子

私たちは、以前に東日本大震災で大きな被害を受けました。その時の経験からももくもくランドの皆さんが今、何を必要としているのかを私たちが紹介させていただいています。日頃から観光を通して親交のある場所ですので、昨年の台風の際にも翌朝すぐにスタッフ数人で状況を確認に行きました。向かう途中の道路が何カ所も冠水し、やっとの思いで到着。一晩たったにも関わらず、まだ駐車場一帯が浸水していて、とても建物の中に入れる状態ではありませんでした。



「一日も早く復旧、復興することを願っています」と話す南三陸ホテル観洋の皆さん

もくもくランドは当ホテルから近い場所であり、泊まりに来たお客さまにはいつも、お勤めの観光地として登米町の「みやぎの明治村」と併せて紹介させていただいています。日頃から観光を通して親交のある場所ですので、昨年の台風の際にも翌朝すぐにスタッフ数人で状況を確認に行きました。向かう途中の道路が何カ所も冠水し、やっとの思いで到着。一晩たったにも関わらず、まだ駐車場一帯が浸水して、とても建物の中に入れる状態ではありませんでした。

ちなみに考え、支援物資を送らせていただきました。実は震災の時に、当ホテルのお客さまを乗せたバスがもくもくランドから移動できなくなったことがありました。その時におにぎりを支給してもらったなど、とても良く思っています。今回の支援はその恩返しでしょうか。今後も近隣の観光施設として助け合い、協力していきたいですね。



南三陸ホテル観洋 おかみ
阿部 憲子 さん

観光を通して親交ある場所。震災時の恩返しです

第1章

危機3

駆け付けた多くの思い

昨年の台風により壊滅的な被害を受けたもくもくランド。そのような中、復旧に向けて全国から多くの支援が寄せられました。駆け付けた、それぞれの思いとは。



道の駅津山
西條 孝一 駅長

全国から多くの支援に感謝
わずか2週間で営業を再開

昨年の台風で敷地内に大量の泥水が押し寄せ、建物も床上80cmまで浸水。木工芸品も約半分が水に漬かり、売り物にならなくなっていました。水が引いた後、店内の荒れ果てた状況を目にし、また営業が再開できるのだろうか、スタッフみんなが不安に思ったものです。

そんな中、被災直後から市内だけではなく、全国から人、物、思いといったさまざまな面で支援をいただいた



多くの支援に感謝しながら営業を続ける道の駅津山スタッフの皆さん

き、仮店舗ながらわずか2週間で営業を再開できました。多くの支援に勇気づけられ、感謝の気持ちでいっぱいです。

道の駅津山「もくもくランド」を復興することが支援をいただいた皆さんへの最大の恩返しと考え、スタッフ一同頑張っています。

令和元年東日本台風支援一覧 (順不同)

内容	団体名
義援金、支援物資	登米コミュニティエフエム、道の駅大谷海岸、道の駅米山、道の駅路田里はなやま、あ・ら・伊達道の駅、道の駅上品の郷、全国「道の駅」連絡会、東北「道の駅」連絡会、熊本伝統工芸館、横山不動尊、追分温泉、JTたばこネットワーク、熊本デザイン協議会、地場産品研究会、佐藤税理士事務所、津山中学校、伊豆沼農産、南三陸ホテル観洋、カフェこもんず、戸倉猟師の会、日本生命、南三陸町商店街、TKC、南三陸町戸倉地区有志
復旧支援活動	津山中学校(剣道部)、古川工業高校(建築科2年生)、カリタス南三陸、千葉県神田外国語大学、上智大学、南三陸町、栗原市、東北工業大学

※道の駅津山「もくもくランド」取りまとめ分を記載。その他、個人からもたくさん義援金や支援物資、復旧支援をいただいています



1被災直後に駆け付け、敷地内の清掃をする津山中剣道部の生徒たち2泥に覆われた店内もボランティアの力を借りてきれいに3復旧支援で訪れた南三陸町の佐藤仁町長(右)に被災状況を説明する西條駅長4市内外の多くのボランティアが復旧作業に汗を流した5登米市PR動画「登米無双」をきっかけに交流のあった大阪府堺市立金岡南小学校の児童から届いた応援のメッセージ。メッセージは施設内に展示中



1 現在は仮店舗である物産館内で展示販売されている津山自慢の木工芸品 2 敷地内の木製遊具で遊ぶ子どもたち 3 昨年は「秋田ふれあい竿燈(かんとう)」も開催された 4 夏休みに開催される「親子木工教室」には毎年大勢の親子が参加 5 ワサビなど地元の新鮮な農林産物が購入できる産直コーナー 6 今年3月に新型コロナの影響により一般公演が中止となった市民劇場「夢フェスタ水の里」。劇のシンボルともいえる「イナイリュウ」の想像模型を物産館内に常設展示

第2章

存在1

私たちにとっての「もくもく」

年間を通じて多くの人が訪れるもくもくランド。それぞれの人たちにとって、「もくもく」とはどのような場所なのでしょう。

地域の特長を集めた場所であり地域活性化の拠点



津山地域振興会 会長 堀田 耕平

さまざまな人とのふれあいの場

津山地域振興会は津山公民館を地域づくりの拠点として活動しています。もくもくランドの存在はこれまでも、そしてこれからも津山地域の活性化を図るための施設であることは間違いありません。

もくもくランドは、柳津地区と横山地区の中間に位置し、イベント広場や広い駐車場もあるので、地域のイベントにもよく利用されています。津山の人も、また道の駅に立ち寄る人と津山の人のふれあいの場にもなっています。

木工芸品が有名なもくもくランドですが、産直センターには津山の農林産物が出荷され、それが農家の生

きがいにもつながっています。にぎわいの拠点であり、経済活動の場、地域の雇用の場、そして登米市をPRする場など、地域活性化の大きな役割を担っています。

地域の宝物・PR窓口にも期待

現在、振興会では津山の観光マップづくりに取り組んでいます。津山の良い所、宝物を紹介し、地域の人ももちろん、市内外の多くの人たちに来てもらい、地域活性化の一助にしたいという願いがあります。

その中で、もくもくランドには津山地域の観光地の中心であるとともに、その集客力を生かして地域全体のPR窓口の役割も担ってほしいと考えています。

今は三陸道の延伸で交通量が減り厳しい状況が続いていますが、地域みんなでもくもくランドを盛り上げていきたいですね。なんといっても、もくもくランドは地域の特長を集めた施設。地域住民にとっては、誇りある場所です。

もくもく製品を長く愛用



大崎市三本木 佐々木 勇士さん

10年ほど前から、もくもくハウスで椅子や小物を購入し、愛用しています。私の理想とするぬくもりがこの製品にはあります。手が掛かっていて品質が良い割には、値段もお手頃だと思います。

買い物とくつろぎの空間



津山町横山5区 佐々木 美佐子さん

産直には週1回程度、野菜やお弁当を買いに来ています。スーパーやコンビニが近くにないので助かりますね。木里口ではコーヒーを飲みながら友達とおしゃべり。くつろげる場所にもなっています。

にぎわう収穫祭が楽しみ



津山町横山9区 尾張 あき子さん

子どもや孫が小さいときは遊具で遊ばせるために来ていました。毎年秋には収穫祭が開催されます。野菜販売はもちろん、チャリティーバザーや餅つき大会などでにぎわうので毎年楽しみにしています。

作品を発表する大切な場



中町新小路 岩淵 高雄さん

市内の豊富な木の資源を活用したくて木工品の製作を始めました。3年ほど前から「もくもく」に商品を置いており、私の大切な発表の場です。これからも良い作品を提供していきたいですね。

世間話から産直で販売に



津山町横山7区 遠藤 真美さん

結婚後津山に住み、産直で買い物をするうちに、店員さんと世間話をする仲になりました。生産者を募っていることを知って、うちで作っているスプレー菊を出荷することになり、販路拡大につながりました。

親子木工教室に会話弾む



追町大浦 杵淵 和枝さん 萌さん

夏休みに「もくもく親子木工教室」が開催されていると知り、昨年、おとしと参加。夏休みの工作の宿題にいいので、気付くと子どもも夢中になって作っています。親子の会話も弾みますよ。

道の駅「津山」もくもくランド

木工芸品を展示・販売する「クラフトショップ・もくもくハウス」や地元の新鮮な農林産物が買える「産直ときめき野菜」、「食事処・木里口」があり、屋外には大型木製遊具がある農村公園やイベント広場があります。また、24時間利用できるトイレと約130台駐車可能な駐車場があり、情報センター設備も備えています。

☎0225(69)2341

※もくもくハウスと木里口は 昨年の台風で被災したため、隣の物産館内で仮営業中



もくもくランドホームページ

第2章 存在2

「もくもく」と歩んだ道のり

もくもくランドは、登米市合併前の旧津山町時代から地域の人たちと共に歩んできました。その歴史と果たしてきた役割とは。

新しい地場産業で町の活性化を

1982年のもくもくハウスオープン時に、津山町職員として林業振興を担当していました。

「もくもく」の原点は当時の佐々木一郎町長の「自らの知恵と努力で新しい地場産業を興す以外に町の活性化を図る道はない」との信念。スギなどの山林資源を、素材から加工製品まで町内で生産するとの方針を打ち出したことが始まりでした。

もくもくハウスの建設場所は、交通の便が良い国道45号線沿いに整備されました。

「もくもく」の愛称に込めた思い

「もくもく」という愛称は、9町が合併して登米市となった今でも、津山町の代名詞になっています。「もくもくハウス」という名前はオープンに先立って公募しました。採用されたのは当時、津山中2年の女子生徒。「木」と「木」で「もくもく」ですが、津山町民が過去の苦難の歴史を「黙々」と自力ではい上がってきたイメージにも重なり採用されました。



津山町石員 佐藤 賀津雄さん

1955年生まれ。74年に津山町役場に入庁し、81年からは産業課で農業や林業を担当。もくもくランドの立ち上げ業務などに従事する。退職後、2014年から4年半、道の駅津山「もくもくランド」の駅長を務める。

都市と山村の一大交流拠点として整備

「津山の顔」として誇れる拠点に

木材資源を軸に工芸の町づくりを目指して事業を推進した結果、東北工業大学との共同研究で開発した矢羽木工芸品の展示販売場としても全国的な知名度を増していき、オープン当初から多くの人でにぎわったのです。視察の依頼も全国からあり、多い時には年間3千人ほどの視察を受け入れたこともありました。

売り上げが好調だったもくもくハウスは、出品数が増えて家具類も販売するようになると、店舗が手狭に

なってきました。また、敷地内で野菜の無人販売をしていましたが、出品希望者が増えたことと、ワサビやイワナなどの地元食材を使った食堂も併設したいという考えから、施設を整備し、現在の「もくもくランド」の形になりました。

もくもくランドは94年に建設省の「道の駅」に指定。県内では七ヶ宿町に次ぐ2番目の道の駅です。都市と山村を結ぶ一大交流拠点を目指して整備が進められてきたもくもくランドが、名実ともに「津山の顔」として誇りうる拠点となりました。

もくもくランドの主なあゆみ

- 1982(昭和57)年 6月 クラフトショップ「もくもくハウス」オープン
- 8月 矢羽集成材考案
- 1984(昭和59)年 7月 常陸宮殿下同妃殿下がもくもくハウスを視察
- 1986(昭和61)年 7月 もくもくランド建設開始
- 1988(昭和63)年 7月 間伐材流通合理化センター現物産館、高齢者加工活動施設オープン
- 1989(平成元年)年 10月 郷土文化保存伝承館オープン
- 1990(平成2)年 7月 もくもくランド完成
- 8月 皇太子殿下(現天皇陛下)行啓
- 1991(平成3)年 6月 食事処「木里口(きりくち)オープン
- 1994(平成6)年 7月 もくもくランドが建設省の道の駅「津山指定宮城県で2番目」
- 2003(平成15)年 10月 もくもくハウスがリニューアル、産直センター「産直・ときめき野菜」オープン

地場産業が地域のカタチ変えた好事例

「一村一品運動」を津山町で展開

もくもくランドとの付き合いは、1978年までさかのぼります。きっかけは、私が県の工業技術センターに勤めていた時に、津山町長だった佐々木一郎さんが「地場産業で地域活性化を目指したい」と、技術センターに相談にいられたのです。

その頃は、大分県で「一村一品運動」といった地場産業を推進する取り組みが行われ、全国的に機運が高まる中で、県も佐々木町長の提案を後押しさせてもらうことに。津山町は戦後の植林でスギが多くありましたが、スギの木工芸品を使った町おこしをする方向で自然と話は進んでいきました。

木工芸品を作るにはそれに伴った技術が必要ということで、当時、東北工業大学で全国の木工芸品づくりを支援していた時松辰夫さんに講師を



東北工業大学 連携アドバイザー 佐藤 明さん

1949年生まれ。71年から宮城県職員として工業技術センターで地域産業振興やデザイン振興業務を担当。産業技術総合センターを経て、2008年から東北工業大学地域連携センターで、地域連携や産学連携などの業務を担当する。

依頼しました。その時の時松さんの教えが、今の津山町の質の高い木工芸品の原点です。当時としては珍しく、塗りや乾燥の工程を大事にするなど丁寧な工法で、形だけでなく質にもこだわりのありました。

矢羽はどのように生まれたのか 今、津山の木工芸品の象徴にもなっている矢羽集成材を考案したのも時松さんです。矢羽は見た目のデザイン性はもちろんですが、つなぎ合わせて作ることで大きな木がない状況でも家具などの大型商品を作ることが出来ます。

津山のスギは、性質上成長が早く効率的な建築材として利活用が多い反面、年輪の粗さが弱点。シンプルでデザインが求められる家具や小物にとってはデメリットでしかありません。しかし、その粗さを生かし矢羽模様の集成材にすると、はつきりとした模様を出すことができました。



1 初売りにぎわうもくもくハウス店内 2 イベント時には横山伝統の獅子舞のお披露目が 3 敷地全体で開かれた「24時間フリーマーケット」。施設内では夜通しでライブ演奏も 4 津山の木工芸品作りに取り組む中で佐藤明さん(左)も時松辰夫さんの指導を受けた

さに、デメリットをメリットとして生かす技法といえます。

矢羽に学びピンチをチャンスに

昔は都会に出稼ぎへ行く人も多かったようですが、地元でモノを作る技術ができたことで地場産業に成長し、その必要もなくなっていきました。木工芸品が地域の産業を変え、家族のカタチ、地域のカタチを変えた素晴らしい事例だと思います。

当時の佐々木町長は、常々「地域づくりは人づくり」という話をされてきました。今は後継者不足といった問題もあるかと思いますが、高い技術を継承し、もくもくランドが地元から愛され続けることを願っています。かつて津山杉のデメリットを矢羽集成材というメリットに変えたように、このピンチをチャンスに変える力がこの地域の人たちにはあると信じています。



1982年にオープンしたクラフトショップ「もくもくハウス」

木目や色合いを見て工夫
好みの色や素材を探して



菊地 覚さん
1948年生まれ

私が作る商品はカップ類が多いです。自分自身が楽しんで製作していて、木目や色合いによって木材のサイズを変えるなどの工夫をしています。同じものはないので、好みの色や素材を探して、楽しみながら選んでほしいです。私の作ったカップでお茶を飲み、和みの時間を過ごしてもらえたらうれしいですね。



用途により形などを改良
安全面にも配慮して制作



高橋 秀一さん
1950年生まれ

皿やボウル、おもちゃを中心に製作しています。皿やボウルは、用途によって使い分けできるように形やサイズを改良しながら作っています。強度を出すために焼いて加工する商品もあります。特に子どもが使うものは、面取りに気を付けるなど、安全に配慮していますので、安心して使ってほしいと思います。



使い勝手の良さ意識する
長く使えるよう修繕対応



佐々木 喜市さん
1951年生まれ

私が作る商品は皿やトレーなど、器型のものが多いです。皿は使う人のことを考え、縁に少し出っ張りを付けるなど、使い勝手の良さを意識して作っています。せっかく買ってもらった商品は長く使ってほしいので、修繕にも対応します。木のぬくもりを感じながら、多くの人に使ってほしいですね。



商品を買って来てくれる
その人のために技を磨く



佐々木 賢一さん
1949年生まれ

職人たちは、美しいデザインや使いやすいサイズなどより良いものを目指し、お互い競争してきました。それぞれの工夫が良い方向に向かったと思います。作品は、100%の仕上がりは難しく、日々努力をしています。お客さんには良いものを提供したいので、商品一つ一つの製作には気が抜けません。



木の特徴を意識して製作
長く愛着を持って使える



西條 孝一さん
1948年生まれ

スギやサクラ、クワなどそれぞれの木が持つ特徴を意識しながら、自然の良さが生きること心掛けています。私が作る木工芸品の一番の特徴は削り直してできるものが多いこと。あらかじめ厚めに作ることで、使い古した皿も表面を削り新品のように再利用できます。長く愛着を持って大切に使ってほしいですね。



ぬくもり感じるおもちゃ
小さなお子さんにも安心



佐々木 正志さん
1952年生まれ

主におもちゃを製作しています。スギは軽くて柔らか。傷がつきやすい欠点はありますが、冬場でも冷たさを感じにくい素材です。子どもたちが手にした時に、木のぬくもりが伝わるようスギにこだわって製作しています。積み木は塗装せず、口に入れても安心できるように加工。スギの良い感触を感じてほしいです。



繊細な指先の感覚が強み
手間暇をかけて仕上げる



遠藤 勇一さん
1957年生まれ

繊細な指先の感覚が自分の強みです。頭に描いた作品は、実物になってみると想像したものと違うことも多いのですが、失敗を繰り返しながら、今の形にたどり着きました。納得できる作品が出来上がるまで、手間暇をかけて仕上げています。趣味ではなく仕事としての責任感を強く持って日々製作に励んでいます。



第2章

存在3

木を生かす達人たち

木工職人の熟練した手仕事により、木工芸品として地域の木材に新たな命が吹き込まれます。どのようなこだわりがあるのでしょうか。

■ GOOD DESIGN賞

2013年度受賞
もくもくハウス7Dishes
「MMH7D」



2014年度受賞
角盆「Bon」



全ての人に優しいがコンセプト、多方面で高評価

木と向き合い木の声を聞く職人

津山木工芸品事業協同組合は、もくもくランドの木工芸品を製作する職人たちが構成する組合です。最初にもくもくハウスがオープンした1982年に設立されました。現在、職人は7人いて、私は事務主任として、商品の販売やPRなどを担当しています。

商品の材料は地元産材で、津山に豊富なスギのほか、クルミやサクラなど多種多様です。津山の木工職人は、人を育むように丹精込めて木工芸品を作り上げます。

今や「もくもく」商品の代名詞ともいえる矢羽木工芸品は、組合を設立した年に、当時の職人たちが東北工



津山木工芸品事業協同組合
事務主任
阿部 幸恵さん

スギ材の白い箇所と赤い箇所を交互に積み重ね、プレスして圧着し、大きな1枚の板を作ります。

■ 矢羽木工芸品ができるまで



スギ材の白い箇所と赤い箇所を交互に積み重ね、プレスして圧着し、大きな1枚の板を作ります。



プレスした板を木目が斜めに走るように切り、上の面と下の面をプレス機でさらに圧着します。



カットした面を表・裏交互に並べ、再度接着することで、きれいな矢羽模様の板ができます。



手間をかけて作り上げた矢羽模様の板を、商品に合わせてカット・加工し、矢羽木工芸品が出来上がります。



仙台市若林区
佐藤 和子さん

それぞれの思いがこもる品
多くの人に手にしてほしい

もくもくランドの木工芸品と出会って30年以上になります。「もくもく」の木工芸品は、材質の柔らかいスギを材料としたものが多いため、小さなお子さんのおもちゃとしても安心して与えられるのがいいですね。子どもから高齢者まで安心して使うことができると思います。

縁あって、2011年に仙台でオープンした「もくもくハウス仙台店」の店長を務めました。そこで多くのお客さまと出会い、グッドデザイン賞を受賞した商品に携われたこと、もあって、「もくもく」は私の人生の中でとても大きな存在です。

オーダーメイドができるのも「もくもく」商品の魅力の一つ。店長をしていた時も多くの注文がありましたが、職人さんたちが高い技術でお客さまの注文にしっかりと応え、質の高い商品を作ってくれました。

「もくもく」の木工芸品は、作る人、販売する人、使う人、それぞれの思いを伝えられると感じています。木目が美しく温かみも感じられる商品です。多くの人に手にしてもらえ、と私もうれしいですね。

未来1

「もくもく」に描く未来

「もくもく」の未来をどう描き行動していくのか。過去から引き継いできたものを未来に生かすため、若者たちが思い描く「もくもく」の未来の形。

津山で生まれ育ち、現在は地元で会社を経営しています。私が子ども頃は、今に比べて人口が多く、もくもくランドでのイベントもたくさん開催されていました。高校生の時に、もくもくランドで開催された「24時間フリーマーケット」に合わせ、友人たちとパーベキューをしたのは良い思い出です。

今は「もくもく」を訪れる人も減り、前ほどイベントは開催されていません。そのせいか、地域の一体感が少なくなつたように感じています。もくもくランドは木製の大型遊具があり、家族で楽しめる場所。ここを中心に交流人口が増えればもくもく地域も活気づくのではないでしょう。津山といえればやっぱりもくもくランド。この場所を中心に、地元の人

地域一体で活気を取り戻したい

たちが一体感を持ち、昔のような活気を取り戻していきたいですね。



津山町横山4区在住
1982年生まれ
熊谷 哲弥さん

高校卒業までを登米市で過ごし、現在は仙台にある登米市物産直売所でスタッフとして働きながら、大学で非常勤職員をしています。

登米市のシンボルとなる存在に

近な存在でした。出荷の合間に、よく弟と木製遊具で遊んだ記憶がありま

津山にある実家では「産直・ときめき野菜」に野菜を出荷しているのもくもくランドは幼い頃から身



津山町入沢出身
1996年生まれ
佐々木 悠里さん

す。もくもくランドで開催されていたイベントは、地元からの参加者も多く、地域のまとまりやにぎわいが感じられました。イベントは減りましたが、今でももくもくランドは地域の交流の場だと思っています。若い人もお年寄りも立ち寄れる地域活性の場として、今後とももくもくランドがあり続けるとうれしいですね。津山はもちろん、登米市のシンボルとして復旧・復興できることを願っています。

お店がなくならないか心配木の製品を知ってもらって

もくもくランドで働いている親戚から、昨年の台風の大雨でお店が水浸しになって大変だったという話や、今は水に漬からずに無事だったところにお店を移動して、木の製品を売っていると聞きました。お店がなくなってしまうのではないかと心配です。もくもくランドには野菜などを買いに行くことがあるので、なくなると絶対困ります。もくもくランドで売っているコップや食器などの木の製品をみんなに知ってもらって、お客さんがいっぱい来てくれるようになれば、お店もなくならないと思います。



柳津小学校5年
亀井 遥斗くん

もくもくランドには、買い物に行くこともあるし、休みの日に友達と集まってアスレチック遊具で遊ぶこともあります。駄菓子コーナーでおやつを買ったり、たこ焼きやソフトクリームをみんなで食べたりするのも楽しいです。津山町は林業が盛んな所で、木を伐採して使ったら、将来のためにまた木を植えることを、学校の授業で学びました。もくもくランドに小さい子から大人までもっとたくさんの方が集まるように、植えた木が大きくなったら、その木を使って遊具を作ってほしいです。

授業で林業の仕組みを学習木が育ったら遊具に使う



横山小学校6年
堀田 望空さん

授業で木工品の作り方を「もくもく」の良さ伝えたい。中学1年の「技術」の授業で、木の皿を作りました。四角い板に鉛筆で自分が作りたい大きさの円を書き、職人さんと一緒に機械で削りました。四角を丸くする作業が難しかったです。機械で削った後は自分たちでヤスリをかけニスを塗って完成。木の皿は、家でお客さんが来た時にお菓子などを載せて使っています。もくもくランドには、木のぬくもりが感じられる物がたくさんあります。2年生の総合的な学習の時間でPRポスターを作成しました。たくさんの方に「もくもく」の良さを伝えていきたいと思っています。



津山中学校2年
熊谷 潤奈さん

「もくもく」の復旧・復興みんなで考えること必要

市では、もくもくランドの被災前から、売り上げが落ち込んでいる産直コーナーをどのように立ち直らせるのかをテーマに、関係者で話し合いを重ねてきました。現在は、もくもくランドの復旧・復興の方向性について話し合いをしています。主なメンバーは、もくもくランドの指定管理者の協同組合もくもくランド、県、そして地域振興などの連携協定を結んでいる東北工業大学です。



産業経済部
地域ビジネス支援課
小野寺 純 係長

復旧・復興に向けて連携地域の意見をどう聞か東北工業大学は合併前の津山町と古くから関わりがありましたが、2018年12月にあらためて登米市と当大学が連携協定を締結しました。地域の資源を活用した活性化や地場産業の持続的な再生などの面で取り組みを進めることにしており、もくもくランドの復旧・復興もその一つ。これまで市やもくもくランドの関係者と話し合いを重ねてきましたが、これからはもっと地域の意見を聞くべきだと思っています。地域が同じ方向を向き、理想的な在り方について共通の認識を持つことが重要です。



東北工業大学
地域のくらし共創デザイン
研究所
伊藤 美由紀 所長

木工製作通じ地域愛育む



津山中学校
千坂 佳織 校長

津山中学校では地域の産業を学ぶため、授業に木工製作を取り入れています。木工職人を講師にしたその取り組みは何十年にも及びます。

以前は、ふるさと教育の一環で全校生徒を対象に木工芸品を製作していましたが、現在では「総合的な学習」の時間を使い、1年生の教科学習の「技術」で木工製作をしています。

この授業は津山町ならではのものです。中学生のうちに地場産業に触れることで、地域の誇りや愛着を育む良い取り組みだと感じています。



職人と一緒に、機械を使って木を削り皿を作る生徒たち。皿は文化発表会で展示

もくもくランドは市の施設ですが、大切なことは市が一方的に事業を進めるのではなく、多くの人からさまざまな声をしっかり聞き、市民の皆さんと事業を進めていくことです。これまで、もくもくランドに近い関係者間の話し合いでした。今後は地域の若い人を含めた市民、そして外部も含めた多様な意見を聞きながら、もくもくランドの将来についてみんなで考え、動いていくことが大切です。

未来2

「もくもく」に懸ける夢

木工職人になることを夢見て
地域おこし協力隊(木工芸支援員)として本市に飛び込んだ2人。
彼女たちが見据える未来を探ります。

自分の工房が夢。 津山の技術絶やすことなく継続

——協力隊に応募したきっかけは

井上 大学でデザインを学んだ後、愛知県の工房で3年間木工を学び、昨年6月から登米市の木工芸支援員として働いています。

高校生の時に、画塾で絵を学んでいました。その教室にいくつかあった木製の家具が、汚れていたものの良い雰囲気があり、家具を作ること憧れを持ち始めたのが木工職人を目指すきっかけです。

している人が何人かいたことと、教授からの勧めもあって登米市の地域おこし協力隊に応募しました。

入岡 前の職場である利府町の「民の森」で働いていた時に、たまたま登米市の地域おこし協力隊の募集を見かけました。

県民の森で働く中で、もともと好きだった自然に対して、より愛着が湧くようになり、それを支える森林や木が好きになりました。もつと木に関わる仕事をしたいと思って、いたところでしたが、慣れた仕事を



地域おこし協力隊
木工芸支援員
井上 優里さん

1992年生まれ、滋賀県大津市出身。大学でデザインを専攻した後、愛知県の工房で3年間木工を学ぶ。2019年6月から地域おこし協力隊として、木工商品を製作しながら技術取得に励む。



地域おこし協力隊
木工芸支援員
入岡 知美さん

1975年生まれ、宮城県仙台市出身。大学の美術学科卒業後、「宮城県民の森」で職員として自然保護業務に従事。2019年11月から地域おこし協力隊として、木工商品を製作しながら技術習得に励む。

少し落ち着いた頃に干支の小物を作る手伝いをさせてもらうようになり、最初は四苦八苦。大先輩の木工職人である西條孝一さんに教えていただきながら、商品が仕上がるまでの工程を学びました。

——現在の暮らしと将来の目標は

井上 はじめは、東北に住むということ、降雪時の車の運転が怖かった

小物作りが好き。

オリジナルデザインの商品作る

——入岡

失敗繰り返し技術習得



津山木工芸品事業
協同組合
遠藤 勇一さん

木工職人の立場で協力隊員の2人と接しています。今は技術的な基礎ができてきたところですね。疑問な点は積極的に聞きにきますし、やる気が感じられます。失敗を繰り返しながら技術を身に付け、自分らしい作品を作っていってほしいですね。

日々努力し木工に励む



津山木工加工センター
高橋 満さん

二人は勉強熱心で、休みの日でも工場に来て試行錯誤しています。自分がイメージする作品について、職人に教わる事もあるようです。日々努力しているので、先輩の技を自分のものにして、登米市の木工職人として頑張りたいと思います。

地域とのつながり支援



津山総合支所
末永 隆支所長

2人とも慣れ親しんだ暮らしから離れ、数ある木工の産地から津山を選んできたことに感謝しています。彼女たちは市の職員でもあるので、技術的な指導は職人さんに任せ、支所では地域とのつながりを持てるよう支援していきたいですね。

講義や交流で育成支援



東北工業大学
地域連携センター
菅原 玲さん

協力隊の2人には、大学の講義や仙台市秋保にある工房の職人との交流の場などを提供しています。協力隊員の取り組みを通じて、登米の木工や森林資源に対する未来について、市民の皆さんが考えるきっかけになることを期待しています。



後継者不足解消の一助 2人の協力隊員に期待



産業経済部農林振興課
千葉 哲彦係長

木工職人の高齢化による後継者不足が大きな課題です。市では昨年度、国の地域おこし協力隊制度を活用し、全国から木工職人の人材を募集。現在、2人の女性隊員が津山地域に居住し、津山総合支所を拠点として活動しています。彼女たちは木工職人の工房や津山木工加工センターで木工の技術習得に励み、販売活動の支援などにも当たっています。また、木工知識の学習については東北工業大学にも支援をいただいています。市では、彼女たちが木工職人として定着できるよう支援し、後継者不足解消の呼び水になることを期待しています。



井上さんが作成した
可動棚



入岡さんが作成した
ペン立て

辞めて新しい仕事に挑戦することは私にとつてかなりの冒険。それでも、やりたいことをやらなないと後悔する。考え、思い切って応募しました。縁あって登米市の地域おこし協力隊に採用され、昨年11月から木工芸支援員として働いています。

——木工芸支援員としての活動は

井上 協力隊になった当初は、津山木工加工センターの皆さんに教えてもらいながら、木を製材したり、それをベンチケースや食器棚に組み立てたりする作業がメインでした。組み立ての作業も楽しかったのですが、

人のことを考えた商品を作れるようになりたいですね。

ここで仕事をしていく中で、後継者不足を強く感じています。「矢羽」という素晴らしい技術を絶やさないようにしつつ、自分らしい商品を作れるようになりたいと思います。

入岡 木工職人や一緒に作業させていたでいる津山木工加工センターのスタッフ、借家の大家さんなど、この地域に住む皆さんの優しさに支えられながら仕事をしています。技術習得に向け、木工芸支援員としての任期中に学べるだけたくさん技術や知識を身に付けたいと思っています。

将来は木工職人として働けることが理想です。小物を作ることが好きなので、日用品など皆さんの生活にうまく溶け込めるようなオリジナルのデザインの商品を作っていきたいです。登米市への観光客向けに木工芸品のお土産も作ってみたいですね。木工の技術を絶やすことなく継続していくための力になればうれしいです。

思いを未来へ

旧津山町時代に整備されて以来、「もくもく」の愛称で親しまれ、市内外の人たちに育まれてきた「もくもくランド」。当時の佐々木一郎町長の思いを起源に、木工職人育成や矢羽集成材誕生など、たくさんの人たちの思いが込められ、ここまで歩んできました。

しかし、近年は木工職人の後継者不足や三陸道延伸による交通量と売上額の減少、さらには台風の甚大な被害を受け、施設の存続そのものが危ぶまっている現状です。

このような中、小さな光も差し込んでいます。これまで、地域内ではなかなか見つからなかった後継者。現在、市外から2人の女性が木工職人を夢見て日々研さんしています。

本市には、昔から他の文化や人、知恵などを受け入れる土壌が代々受け継がれてきました。かつては、木工芸品としてデメリットの多かったスギ材。それが矢羽集成材という、丈夫でデザイン性に優れたメリットのあるものに生まれ変わったのは、地域だけでは超えられない課題を、さまざまな人たちの力を借りて取り組んだ結果です。いくつものスギ材が集まって出来上がった矢羽集成材のように、多くのヒトやモノ、コトが力を合わせたことで、地域が変わりました。

「もくもく」の愛称には、津山町民が過去の苦難の歴史を「黙々(もくもく)」と乗り越えてきた自負と誇りが込められているそうです。さまざまな人たちの思いを「矢羽」のようにつなぎ、一つ一つのことに「もくもく」と取り組んでいくことで、このデメリット(苦難)をメリット(復興)に変えていけるのではないのでしょうか。

第3章

未来3

復旧、そして復興に向けて

昨年の台風被害から、現在も復旧・復興への取り組みが進められている「もくもくランド」。復旧の現在地と、復興に向けた今後の方向性は。

長い歴史共に歩む できる限り支援を



東北工業大学
菊地 良覚副学長

当大学は、もくもくハウスオープン当初から関わり、矢羽集成材の共同開発などをしてきました。今でもインターンシップで学生たちを受け入れてもらっていて、研修先としても大変人気のある場所です。

もくもくランドの魅力はそれを支えている「人」です。特に、木工職人たちの何んでも作れる技術力の高さは他にはない強み。そんな職人たちが作る木工芸品の質の高さを全国に発信し広く知ってもらおうことと、後継者を育てることが、今後の課題ではないでしょうか。

もくもくランドには、個人的にも長い歴史を共に歩んできた思い入れがあります。強みや課題もある程度、捉えていますので、復旧・復興に向けて、東北工業大学としてもできる限りの支援をさせていただきたいと考えています。

県林業のシンボル 発信拠点の役割を



県東部地方振興事務所
登米地域事務所 林業振興部
眞田 廣樹部長

県の林業担当職員の多くは、職歴を重ねる中で、もくもくランドの担当になることが少なくありません。私も1986年に入庁した際に矢羽加工の見学などを通じ、当時の木材加工の神髄に触れ、震災直後には仙台での「もくもくアンテナショップ」の立ち上げにも携わることができました。

もくもくランドは、林業に関わる職員にとって、理解を深め、成長の機会となる貴重な存在。森づくり、人づくりの拠点として、今も昔も圧倒的な存在感を放つ「聖地」と言えます。

登米市は、国の林業成長産業化地域に県内で唯一指定されている県林業のトップランナー。もくもくランドには、県林業のシンボルとして、登米市林業を市内外に発信する拠点としての役割を、今後ますます期待しています。

選ばれる道の駅に 市民と情報共有も



市議会
産業建設常任委員会
氏家 英人委員長

道の駅津山「もくもくランド」が復旧・復興していくためには、昨年の台風被害を教訓に、防災・減災対策をしっかりと講じた上で「選ばれる道の駅」にしていかなければなりません。

そのためには、市民皆さんの知恵と力を借りながら進めていくことが不可欠です。まずは市民の皆さんに、半日でもいいからもくもくランドに足を運んでいただき、見て、買って、食べていただく。市民一人一人のそうした行動が、大きな支えにもなります。

そういう意味では、市としても広報紙などを活用して、もくもくランドの現状をしっかりと市民の皆さんに伝えていかなければいけません。9町が合併し登米市が誕生して既に16年。「もくもく」は津山町だけの財産ではなく登米市民の財産なのですから。

皆の英知を結集し、創造的復興を目指す

被害が甚大で調査・検討に時間

令和元年東日本台風の被災から1年が経過しました。床上浸水で甚大な被害を受けたもくもくランドは、産直コーナーが元の場所で営業を再開したものの、もくもくハウスの木工芸品の展示販売と木里口の飲食提供は、離れた物産館内です。まだに仮営業している状況です。関係者や市民の皆さまには大変なご心配をお掛けしています。市としても、被害があまりに甚大だったため、調査や復旧方法の検討に時間を要しているのが現状です。

木里口については特に被害が大きくなり老朽化も進んでいることから、修繕は困難と判断し解体する方向です。もくもくハウスについては建物も比較的新しいため修繕して使用することは可能ですが、問題は昨年のような豪雨に見舞われれば、また同じように被災してしまうということ

です。令和元年東日本台風ではもくもくランドの裏を流れる南沢川が氾濫し、泥水や流木などが施設に流れ込み、大きな被害につながりました。南沢川の改修については早期に完了するよう、管理する県に働きかけています。

特長生かし、より新しい魅力を

もくもくハウスについては防災・減災機能を強化した上で、現地での再建を基本に考えています。ただし、三陸道の延伸で落ち込んだ入込数を回復させるためには、現在の「もくもく」の特長を生かしながらも、より新しい魅力を持った道の駅に生まれ変わらなければと考えており、その方向性については現在、長年支援をいただいている東北工業大学と相談させていただいているところ。私自身、合併前まで津山町長を務め、もくもくランドは「津山の顔」としての強い誇りを持ってきました



熊谷 盛廣市長

し、登米市長となった今では「登米市の誇り」であるため改めて認識しています。もくもくランドの将来については、市民皆さまの英知を結集し、復旧にとどまらない創造的復興に向けて取り組んでまいります。



東北「道の駅」連絡会
会長
荒井 顕 啓記事務局長

木の特長を大事にしながらかす親子連れが多い強み生かす

東北道の駅「連絡会」は、東北にある全ての道の駅を持つ自治体が加盟している会で、私は11年前からその事務局を務めています。

道の駅は年々増えており、全国で1180カ所(2020年7月現在)、東北だけでも165カ所宮城には15カ所の道の駅があります。

道の駅津山「もくもくランド」は、林産品をメインにした東北でも珍しい道の駅です。施設全体に木の温かみを感じられ、スタッフ皆さんの温かい雰囲気と相まって、私の好きな道の駅の一つですね。「木」を前面に押し出す現在の特長は大事にしながらか、産直コーナーや木製遊具をもっと充実させると、道の駅津山の魅力がより増すのではと感じています。

道の駅は、道路利用者へのサービスの場として全国に広がっています。国土交通省では現在、道の駅を観光、防災の拠点と捉えるとともに、子育て世代が利用しやすい機能の強化に力を入れています。道の駅津山は、もともと親子連れが多く訪れる施設ですので、その強みを生かしていくのがいいのではないのでしょうか。



まちづくり推進部
観光シニアプロモーション課
千葉 道宏係長

「森の町」の朝ドラ効果活用「もくもく」への誘客も図る

もくもくランドは、地場産品の木工芸品の販売を通じた地域林業のPR拠点です。また、地元産の農産物の販売やおいしい食事の提供、親子連れで楽しめる野外の木製遊具など、多くの人が訪れる本市が誇る観光拠点でもあります。

本市は、来春放送予定のNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」で、ヒロインが青春時代を過ごす「森の町」の設定です。市としても朝ドラ効果を活用して一層の観光振興を図りたいと考えています。森林の魅力も発信していきながら、本市の知名度や認知度を向上させ、誘客につなげていきます。

初のチャチャカップ スポーツの秋PGで満喫

「第1回チャチャカップ・パークゴルフオープン大会」(株式会社いしこし主催、猪股研代表取締役)は10月20日、高森パークゴルフ場で開かれ、市内外から207人が参加しました。

チャチャカップは、県内外のプレーヤーの交流拡大と健康増進が目的。高森パークゴルフ場の4コース36ホールを53組に分かれてプレーし、好成績の男女それぞれ10人が表彰されました。工藤和枝さん(74)＝追町萩洗＝は「初めての大会ですが、参加者が多くて楽しいですね。天気も良く、グリーンを歩くのが気持ちいいです」と秋晴れの下でのプレーに笑顔を見せました。



チャチャカップは今回が初開催。入賞者には、地元の日本酒や高森パークゴルフ場無料回数券などが手渡されました。

アニメキャラで観光 明治村でコスプレ楽しむ

コスプレイベント「れきこす」(アニメ文化祭実行会主催、齊藤建司代表)は10月11日、教育資料館や登米懐古館など登米町域内で開かれ、44人が参加しました。

れきこすは、年2回、観光地などで参加者同士がコスプレしながら交流を楽しむイベント。今回は、新型コロナ拡大防止のため東北地方からの参加者に限定し、開催されました。福島県から参加した渡辺康孝さん(31)は「雰囲気のある建物が好きで、以前から来たいと思っていました。コスプレすることで普段とは違った気持ちになりますし、観光もできる良いイベントだと思います」と、趣ある街並みを楽しんでいました。



参加者は、アニメや漫画のコスプレに身を包み、みやぎの明治村を背景に写真を撮り合うなど、交流を楽しみました。

力と技ぶつかり合い 交流相撲大会で力士熱戦

「第1回宮城県小中学生交流相撲大会」(丸山相撲クラブ主催、柳渕利夫会長)は10月25日、道の駅米山にある登米相撲場で開かれ、県内から集まった小中学生力士が体当たりの熱戦を繰り広げました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で小中学生の相撲大会が中止。日頃の練習の成果を発揮できる場を設けたいと、丸山相撲クラブが開催しました。佐々木修一さん(72)＝米山町場＝は「一戦一戦の取組から子どもたちの一生懸命さが伝わってきます。これからも相撲を続けて、この中からプロ力士が出るとうれいですね」と選手たちの今後の活躍に期待していました。



まわし姿で白熱した相撲をとる子どもたちに、客席から大きな拍手が送られました。

渡り鳥みんなで歓迎 伊豆沼内沼でマガン観察

「渡り鳥をみんなで迎える会」(市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター、伊豆沼・内沼クラブ共催)は10月18日、追野鳥観察館で開かれ、約20人がマガンの飛び立ちを観察しました。

迎える会は、マガン飛来数のピークを前に伊豆沼・内沼の環境に触れる機会を提供したいと初めて企画。参加した渡辺利明さん(56)＝仙台市青葉区＝は「5年ほど前から夫婦で野鳥観察を楽しんでいます。この観察館は高さがあるので、360度遠くまで見渡せていいですね。マガンが一斉に飛び立つ瞬間を見ることができたので来て良かったです」と話していました。



伊豆沼・内沼は、渡り鳥の飛来地として知られ、マガンの「飛び立ち」や「ねぐら入り」は登米市の冬の風物詩になっています。

対話を通じ課題共有 県知事が地域の現状視察

「みやぎの復興現場訪問事業」(宮城県主催)は11月5日、登米市内で実施され、村井嘉浩知事が2事業所を訪問しました。

訪問事業は、震災復興に向けて取り組む企業や先進的な取り組みをしている団体を知事が視察し、意見交換を通して広く県民の意見や要望を把握するもの。当日はみやぎ登米農業協同組合胡瓜部会(久保泰宏部会長)、オサベフーズ登米工場(北村梅治代表取締役社長)を訪問。訪問先で事業概要の説明を受けた村井知事は「これからは先進的な取り組みの継続や地域への貢献をお願いしたい」と激励しました。



訪問した事業所では、事業概要や活動内容の説明後、工場内で製造工程や職員の作業の様子を視察しました。

だて正夢召し上げれ 市内幼小中で新米を提供

市内で栽培されたみやぎ米の新品種「だて正夢」の新米を10月19日から11月9日まで、市内の市立幼稚園と小中学校の給食で提供しました。

だて正夢の提供は、子どもたちに本市の農業や農産物について興味を持ってもらいたいと、市農業振興協議会が企画。提供初日の10月19日には、米山東小5年生32人が、みやぎ登米農協の職員から「登米市で作られるお米」の授業を受けた後、炊き立ての新米だて正夢を味わいました。主藤丈琉くんは「いつもの給食のごはんより甘くて、もちもちしていておいしかった。また食べたい」と感想を話しました。



新米だて正夢の提供は給食センター単位で実施。幼稚園と小中学校で1人1食分ずつ計6800食が提供されました。

令和元年度

決算報告

市は、財政状況を随時皆さんにお知らせしています。皆さんが納めた税金が、この1年間でまちづくりにも使われたのか、一般会計を中心に、概要をお知らせします。

令和元年度 住民基本台帳人口 77,959人
歳出決算額を市民一人(令和2年3月末人口)当たりで見ると… 60万8,311円

総務費 6万642円
行政の運営、庁舎や財産の維持管理などに使われる経費

民生費 17万118円
赤ちゃんからお年寄りまで幅広い福祉の充実などに使われる経費

衛生費 10万1,544円
保健衛生、健康づくり、ごみ対策などに使われる経費

農林水産業費 3万8,005円
農業や畜産などの振興と育成のために使われる経費

土木費 4万4,594円
道路や公園などの整備に使われる経費

消防費 2万2,071円
火災や自然災害などの防災活動のために使われる経費

教育費 7万5,358円
学校などの整備や教育振興に使われる経費

公債費 7万478円
借り入れた市債の元利償還費などに使われる経費

その他 2万5,501円
議会費・労働費・商工費・災害復旧費など

【問い合わせ】総務部財政経営課 ☎0220(22)2159

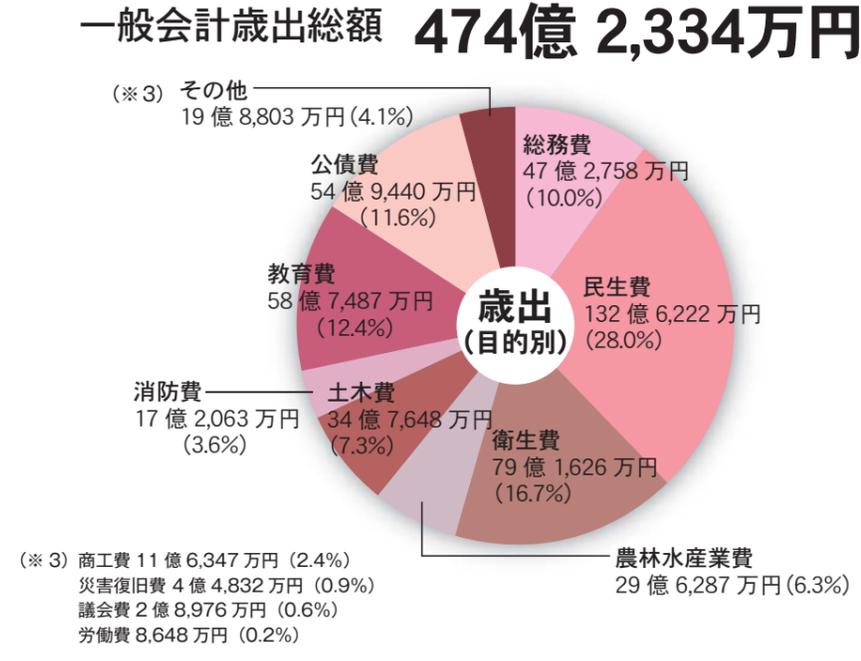
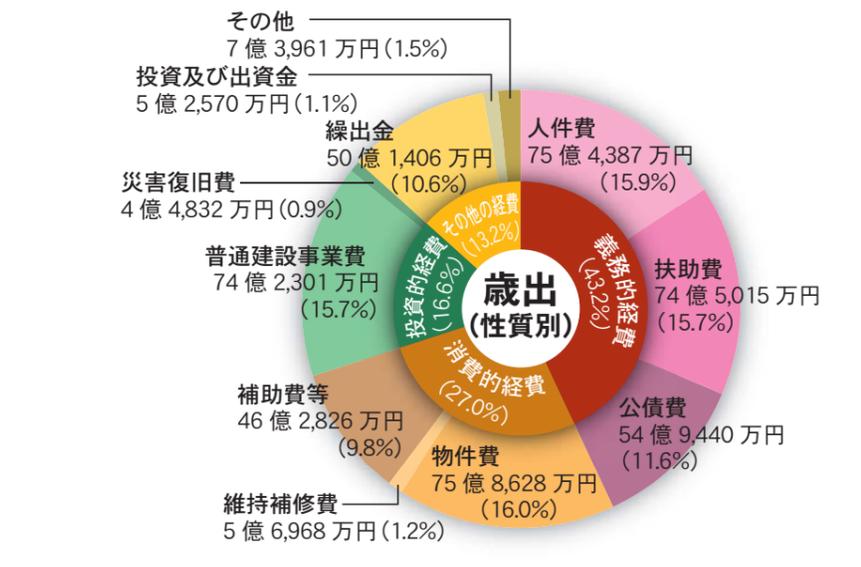


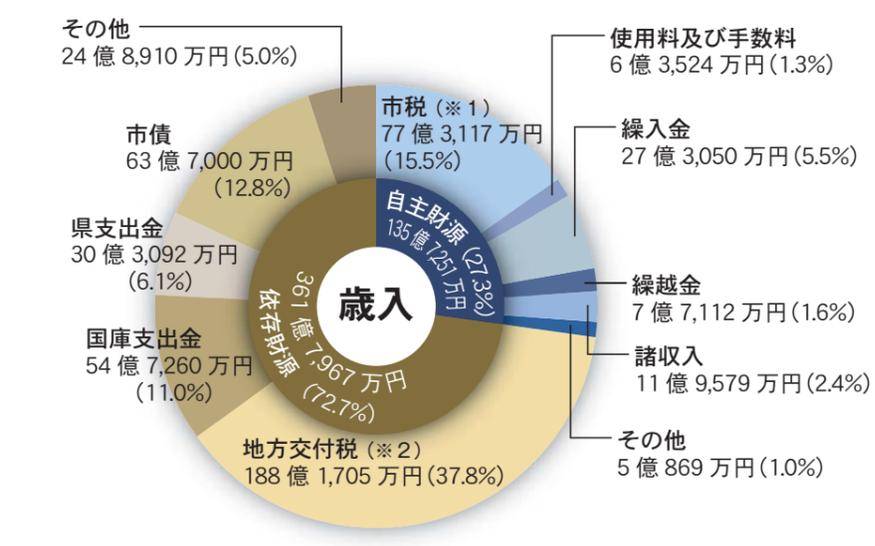
表3 令和元年度決算に基づく資金不足比率 (単位：%)

区分	資金不足比率	資金不足額	事業の規模	経営健全化基準
① 水道事業会計	-	-	20億8,588万円	20.0
② 病院事業会計	17.1	10億1,596万円	59億3,785万円	20.0
③ 老人保健施設事業会計	-	-	3億9,714万円	20.0
④ 下水道事業特別会計	-	-	7億3,714万円	20.0
⑤ 宅地造成事業特別会計	-	-	3,250万円	20.0

財政健全化の目安 全基準値をクリア

財政の健全化判断比率は、自治体の財政破綻を未然に防ぐために制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき算出されています。令和元年度の各指標は全て基準値を下回っていますが、将来負担比率については、県内市比較で最も高い比率となっており、病院事業会計においては、資金不足比率が17.1%となっています。

一般会計歳入総額 497億 5,218万円



(※1) 市民税 32億8,604万円(6.6%)、固定資産税 35億5,327万円(7.1%)、軽自動車税 3億731万円(0.6%)、市たばこ税 5億8,389万円(1.2%)、水利地益税 66万円(0.0%)
(※2) 普通交付税 151億6,691万円(30.5%)、特別交付税 17億3,501万円(3.5%)、震災復興特別交付税 19億1,513万円(3.8%)

表1 会計別決算状況

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	497億5,218万円	474億2,334万円	23億2,884万円
特別会計			
国民健康保険	92億5,544万円	89億2,359万円	3億3,185万円
後期高齢者医療	8億4,204万円	8億2,745万円	1,459万円
介護保険	101億8,451万円	100億3,978万円	1億4,473万円
土地取得	7,622万円	7,621万円	1万円
下水道事業	47億7,932万円	45億9,522万円	1億8,410万円
宅地造成事業	9,457万円	8,809万円	648万円
企業会計			
水道事業	収益的収支 26億1,978万円 資本的収支 8億1,965万円	25億2,051万円 20億5,920万円	9,927万円 △12億3,955万円
病院事業	収益的収支 71億3,203万円 資本的収支 19億4,352万円	79億7,473万円 19億3,979万円	△8億4,270万円 373万円
老人保健施設事業	収益的収支 4億1,933万円 資本的収支 5,230万円	4億2,247万円 5,201万円	△314万円 29万円

表2 令和元年度決算に基づく健全化判断比率 (単位：%)

指標名	内容 (標準財政規模に対する割合)	健全化判断比率	基準値(令和元年度)	
			早期健全化基準	財政再生基準
① 実質赤字比率	一般会計の赤字額の大きさ	-	11.99	20.00
② 連結実質赤字比率	公営企業会計を含む赤字額の大きさ	-	16.99	30.00
③ 実質公債費比率	借金の返済に充てた額の大きさ	7.1	25.0	35.0
④ 将来負担比率	将来負担すべき借金などの大きさ	101.5	350.0	-

地方交付税などの依存財源が約73%

令和元年度一般会計歳入決算額は497億5,218万円です。その内訳は、地方交付税が188億1,705万円(歳入全体の37.8%)、市税が77億3,117万円(15.5%)、国庫31億7,260万円(6.3%)、市債63億7,000万円(12.8%)、普通交付税151億6,691万円(30.5%)、特別交付税17億3,501万円(3.5%)、震災復興特別交付税19億1,513万円(3.8%)、繰入金27億3,050万円(5.5%)、繰越金7億7,112万円(1.6%)、諸収入11億9,579万円(2.4%)、使用料及び手数料6億3,524万円(1.3%)、その他5億869万円(1.0%)です。

学校教育施設の空調や新登米懐古館などの整備を実施
令和元年度一般会計歳出決算額は474億2,334万円となりました。主な事業として、継続事業である一般廃棄物第二処理施設(新クリーンセンター)や新登米懐古館、学校教育施設の空調などの整備に加え、市道や上下水道など生活基盤の整備も計画的に実施しました。

さらに、少子高齢化の進展に伴う介護や福祉、子育て支援対策事業や新規就農者を確保するための担い手育成支援事業についても取り組んだほか、令和元年度日本台風で被災した各施設などの復旧事業を実施しました。

Information

01

防災行政無線はFMを利用する放送に

防災行政無線について

現在、屋内向け防災情報や行政情報は、コミュニティエフエムの電波を利用し、緊急告知ラジオにより放送しています。屋外向けについては、防災行政無線により放送されていますが、電波法の改正により、現在の放送設備が使用できなくなることから、コミュニティエフエムの電波を利用した放送へ切り替えます。

設備の切り替えについて

令和3年3月までに防災行政無線設備の切り替え作業をし、4月から運用を開始する予定です。

切り替え作業期間中は、試験放送を実施するため、緊急告知ラジオを自動起動させます。皆さんのご理解とご協力をお願いします。
現在、町域ごとに放送時刻が異なっている時報(チャイム)や行政情報などの放送は、4月からは市内統一時刻で放送する予定です。詳細は市公式ホームページなどで今後お知らせします。
【問い合わせ】総務部総務課(防災係)
☎0220(22)2091

緊急告知ラジオの配布



緊急告知ラジオは、市内に住所を有する世帯や事業所に無料で配布し、コミュニティエフエムの電波を利用して情報を発信しており、緊急時は自動的に起動し、緊急情報を放送しています。お持ちでない場合は、各総合支所市民課と総務部総務課で配布しますので、ぜひ活用ください。

Information

02

市職員募集

ともに働く仲間を募集します

試験区分、職種、採用予定人員など

Table with 4 columns: 試験区分, 職種, 採用予定人員, 受験資格. Row 1: 上級(大学卒業程度), 保健師, 2人程度, 昭和60年4月2日以降生まれで、保健師の資格を持つ人(令和3年4月30日までに取得見込みも含む)

※採用予定人員は、今後変更することがあります。採用は、令和3年4月1日の予定です

- 試験日: 1次試験: 令和3年1月24日(日), 2次試験: 令和3年2月予定
■会場: 1次試験: 未定, ※決まり次第市公式ホームページなどでお知らせします。また、申込者へ通知します
2次試験: 1次試験合格者に通知
12月1日(火)~15日(火)午前8時30分から午後5時15分[平日]
※郵送の場合は、受付期間中の消印のものに限ります
申込書と試験実施要項は、12月1日(火)から総務部人事課または各総合支所窓口(平日の午前8時30分から午後5時15分まで)に備え付けるほか、市公式ホームページからダウンロードできます。郵便で請求する場合は、封筒の表に「職員採用統一試験申込書請求」と朱書きし、宛先を明記した120円切手が貼ってある返信用封筒(A4版が入る大きさ)および連絡先(電話番号)を明記した任意の用紙を必ず同封してください。
【申し込み・問い合わせ】総務部人事課(人事研修係) 〒987-0511 登米市迫町佐沼 字中江2-6-1 ☎0220(22)2145

Information

03

除雪作業にご理解ご協力ください

市は新しく降り積もった雪の量がおおむね10センチ以上の場合、町域ごとに除雪作業をします。作業は幹線道路を優先します。町域全体が完了するまでには時間を要しますので、ご理解ください。

なお、除雪作業による自宅付近の雪だまりについては、住民の皆さんで除雪していただくようご協力をお願いします。降雪や路面凍結によって、自動車の走行などに支障がある

と思われる箇所がある場合は、ご連絡ください。

【市道に関する問い合わせ】

- ▼各総合支所市民課
▼建設部建設総務課(道路河川管理係)
☎0220(34)2365
【国道・県道に関する問い合わせ】
▼県東部土木事務所登米地域事務所(道路管理班)
☎0220(22)2716

Information

05

道路に張り出した樹木は伐採を

道路に張り出した樹木の枝葉は所有者の管理

道路に張り出した樹木の枝葉は通行上大変危険で、時として思いがけない事故を招くことがあります。また、これから降雪時期を迎え、枝葉に雪が降り積もると、その重みで道路側に倒れ込む心配があります。次のような状態の樹木などの所有者は、樹木の伐採または枝払いをするようお願いいたします。
▼道路歩道に枝が出ている
▼枯れ木、枝折れなどにより通行に支障がある(またはその恐れがある)
▼樹木が生い茂り、通行に支障がある(またはその恐れがある)
▼道路標識やカーブミラーが見えにくい
▼大型車両などの通行に支障がある
これらが原因で交通事故が起きた場合は、樹木などの所有者が責任を問われることがあります。

【作業時の注意事項】

▼電線や電話線のある場所での作業は危険を伴う場合があります。事前に最寄りの東北電力やNTTに連絡し、立ち会いの下で作業してください
▼作業に当たっては、通行車両・自転車および歩行者の安全確保と、樹木からの転落などに十分ご注意ください

Information

04

降雪の時期を迎えます 水道管の防寒対策はお済みですか

水道管防寒対策

▼凍結防止用ヒーターのコンセントは確実に差し込む
▼長期間留守にする場合は、水抜き栓を使い水道管の水を抜く
▼メーターボックス内は、メーター保温材や発泡スチロールで防寒する
※メーター保温材は12月から水道お客様センターおよび各総合支所で無料配布しています

※熱湯を直接かけると、蛇口などを破損させる恐れがあります



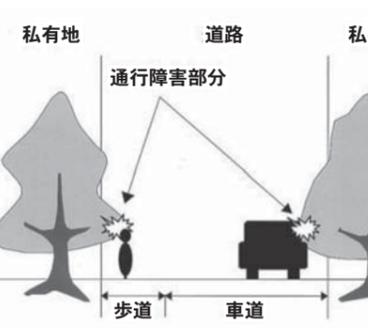
▼凍結応急手当
凍ったところにタオルなどをかぶせて、ぬるま湯をかける

▼蛇口や水道管が破裂したときは、水抜き栓を閉めてから指定給水装置工事業者に修理を依頼する。水抜き栓の場所が分からないときは、破損個所

にタオルを巻きつけてから修理を依頼する
※指定給水装置工事業者の連絡先は、上下水道部ホームページに掲載していますのでご覧いただくか、水道お客様センターに問い合わせください
※修理費用は、全て自己負担となります

- 【問い合わせ】
▼上下水道部経営総務課(業務係)
☎0220(52)3311
▼水道お客様センター
☎0120(023)151

▼道路標識やカーブミラーが見えにくい
▼大型車両などの通行に支障がある
これらが原因で交通事故が起きた場合は、樹木などの所有者が責任を問われることがあります。



- 【問い合わせ】建設部建設総務課(管理係)
☎0220(34)2365



Information 06

契約を結ぶ参考に 農地の賃借料情報

過去1年間(令和元年8月〜令和2年7月)の農地の賃借料情報をお知らせします。

過去1年間(令和元年8月〜令和2年7月)の農地の賃借料情報をお知らせします。農地の賃借料を結ぶ場合は、この情報を参考に、貸し手と借り手の双方で協議してください。

Table with 5 columns: 地域, 平均額(円), 最高額(円), 最低額(円), データ数(件). Rows include 迫, 登米, 東和, 中田, 豊里, 米山, 石越, 南方, 津山, 登米市.

※物納の場合は1俵12,000円で計算 ※畑は提供できる賃借料情報が少ないため、地域区分を市全体として算出。畑は、田と同額と一緒に賃借する場合があります。

■賃借料情報【田(水稲)】

Table with 5 columns: 地域, 平均額(円), 最高額(円), 最低額(円), データ数(件). Rows include 迫, 登米, 東和, 中田, 豊里, 米山, 石越, 南方, 津山, 登米市.

■賃借料情報【畑】

Table with 5 columns: 地域, 平均額(円), 最高額(円), 最低額(円), データ数(件). Rows include 登米市.

物忘れ(認知症)相談 専門医が応じます

高齢者で「最近物忘れが多くなった」「認知症と診断された」など、気になることや困っていることがあるときは相談ください。予約が必要ですので、事前に地域包括支援センターに連絡してください。

■連絡先

Table with 2 columns: 名称, 電話番号. Rows include 迫地域包括支援センター, 中田・石越地域包括支援センター, etc.

【日時】12月25日(金)午後1時30分 【場所】市役所南方庁舎(1階相談室)

【問い合わせ】福祉事務所長寿介護課(地域包括支援係) 0220(58)5551

医療用ウィッグの購入費を助成

市は、がん治療の副作用などで外見の変化に悩む精神的負担を軽減し、療養生活と社会復帰を支援するため、医療用ウィッグの購入費を助成しています。

アルコールなどによる依存症相談会を実施 飲酒・薬物・ギャンブルなどの問題で悩みを抱えている人やその家族を対象に、専門の相談員による相談を実施します。

【対象者】市内に住所があり、がん治療を受けた人または受けている人 【助成対象】令和2年度内に購入した全頭用医療用ウィッグ購入費(上限3万円) ※毛髪付き帽子などは対象外

登米市の公共施設

⑭公共施設の適正な配置に向けて意見を募集します

～市民の皆さんと未来の公共施設を一緒に考えるため、公共施設の再編についてシリーズで紹介しています～

■登米市公共施設等総合管理計画個別計画(最終案)意見募集

市では、令和17年度を目標年次とした「登米市公共施設等総合管理計画個別計画(最終案)」をまとめ、皆さんの意見を参考に、策定を進めていきます。

【資料の公表場所】総務部総務課(市役所迫庁舎2階)、各総合支所市民課、市公式ホームページ

【意見提出方法】郵送、ファクシミリ、電子メールまたは持参。意見を提出する際の様式は自由。住所、氏名(団体・企業の場合はその名称と代表者の氏名)、電話番号、性別、年齢を必ず記載してください。

【募集期間】11月20日(金)～12月21日(月) 【その他】▶意見は、計画策定の参考にします▶個人が特定されない形で、意見の要旨などを公表する場合があります▶意見に対し個別に回答はしません 【意見提出先・問い合わせ】総務部総務課(財産係) 0220(22)2091 ※電話による意見提出はできません 〒987-0511 登米市迫町佐沼字中江2-6-1 FAX 0220(22)3328

✉ somu-somu@city.tome.miyagi.jp

■地域活性化PFIフォーラム開催

公民連携による登米市のまちづくりを進めるため地域活性化PFIフォーラムを開催します。

【日時】12月19日(土)午後1時～4時30分

【場所】米山体育館(上履き持参)

【参加費】▶市民=無料▶一般(企業など)3000円 ※企業などが参加する場合は要事前申し込み

【内容】テーマ「登米市の未来まちづくり」

▶基調講演①「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」(仮題) / 講師=伊藤和久氏(東北地方整備局副局長)

②「まちづくりにいかすPPP・PFI手法と先進事例」(仮題) / 講師=植田和男氏(日本PFI・PPP協会会長兼理事長)

▶まちづくり提案「登米市のまちづくり提案」(仮題) / 講師=櫻井一弥氏(東北学院大学工学部環境建設工学科教授)

【申し込み・問い合わせ】 ▶とうほくPPP・PFI協会 022(216)6222

✉ office@ppp-pfi.or.jp

▶総務部総務課(財産係) 0220(22)2091

12月の休日当番医

Table with 3 columns: 日, 休日急患当番医, 歯科休日当番医. Rows include 6, 13, 20, 27, 29, 30, 31.

12月のこころの相談

Table with 2 columns: 日, 場所・受付時間・担当. Rows include 15, 23.

12月の献血日程

① 5日(土)

▶イオンタウン佐沼 10:00～11:45 13:00～16:30

② 15日(火)

▶佐沼警察署 10:00～12:00 ▶登米合同庁舎 13:30～16:30

③ 22日(火)

▶消防防災センター 9:30～12:00 ▶迫保健センター 14:00～16:30

④ 30日(水)

▶イオンタウン佐沼 10:00～11:45 13:00～16:30

【問い合わせ】 市民生活部健康推進課(保健推進係) 0220(58)2116

自殺予防 仙台いのちの電話

誰にも言えない気持ち聞かせてください。

☎ 022(718)4343

ひきこもり ひとりで悩まないで

宮城県ひきこもり地域支援センター ☎ 0229(23)0024

こども夜間安心コール

●電話番号 #8000 (プッシュ回線の固定電話、携帯電話から) ☎ 022(212)9390 (プッシュ回線以外の固定電話、PHSから) ●相談時間 毎日午後7時～翌朝午前8時

休日・夜間診療案内

休日・夜間診療案内は下記の番号です(24時間対応) ☎ 0229(24)2267

豊里



ひよこライダーが力走見せる

「ひよこランニングバイク大会」(豊里コミュニティ推進協議会豊里地域づくり部会主催、佐々木伸雄部会長)は10月25日、豊里花の公園多目的広場で開かれ、2から6歳までの未就学児21人のひよこライダーが力走を見せました。大会は、会場に設置された150mの特設コースを、足で蹴って進む「ランニングバイク」にまたがり年齢別に速さを競いました。ひよこライダーたちは、家族からの大声援の中、1位を目指して懸命にコースを駆け抜けました。

思い出づくりから友達づくり

「米山地区3小学校6年生交流会」は10月30日、米山体育館で開かれ、米山地区の小学6年生80人が参加しました。交流会は、新型コロナウイルス感染防止のため学校行事が中止や延期になっていることから、6年生に小学校の思い出を作ってもらいたいと実施。最初は緊張していた児童たちでしたが、とめレクリエーション協会と市スポーツ推進委員の指導によりゲームやビニールバレーボール大会が始まると、体育館が笑い声であふれました。



米山

石越伝統神楽鳥舞を引き継ぐ

石越小学校(小松祐治校長、児童190人)の「鳥舞」の練習は9月29日、同校で実施され、5、6年の児童67人が長下田神楽保存会の佐々木忠雄さんから指導を受けました。鳥舞は、毎年石越小学校の運動会で5、6年の児童によって披露される伝統的な演目。児童らは幣束と扇子を両手に、足や手の運び、躍動的に舞うコツなどを教わりました。練習後に佐々木さんは「子どもたちには、神楽を通して昔の人に思いをはせてほしい」と思いを伝えました。

石越



地域の交流を深める出前講座

南方中央地区コミュニティ推進協議会(永浦勝男会長)は、地域づくり事業の新しい取り組みとして、「出張! 出前講座」を開始しました。講座は、地域を知ることや地域の人とコミュニティ職員との交流を深めることが目的。輪投げ大会や紙芝居、ゲームなどを企画しており、各行政区に呼び掛けて希望があれば出張開催しています。参加者からは「集会施設の開催なら普段来れない人も歩いて行ける」との声が寄せられました。



南方

津山



ライト点検と除草で安全確保

津山地区防犯指導隊(佐藤宏市隊長)は、10月11から20日までの全国地域安全運動に合わせソーラーライトの点検と除草作業を実施しました。ソーラーライトは、防犯指導隊が防犯灯のない通学路に児童生徒の通学時の安全確保に向け、平成25年から設置してきたもの。夕暮れが早くなる時期にあわせ点検するとともに、雑草が生い茂り、通行に支障がある道路の除草やガードパイプのツタを取り除き安全確保に努めました。

東和



川釣り地域魅力再発見

米川愛着プロジェクト「川釣り体験教室」(米川地域振興会主催、佐藤裕孝会長)は10月19日、綱木沢川で開かれ、米川小学校児童19人が参加しました。この事業は、ふるさとの魅力を体験し、米川に愛着を持ってもらうことが目的。児童らは釣り場に近い竹林から切り出した竹を好きな長さに加工して釣り竿を作り、釣り餌となるミミズも自ら捕まえました。初めて釣りをする児童も多く、魚が釣れるたびに大きな歓声が上がりました。

津山

ばい捨てごみの多さびっくり

「石森クリーン模範路活動」(石森コミュニティ運営協議会、渡邊義昭会長)は10月17日、石森地区内で地域づくり事業の一環として実施され、37人が参加しました。石森地区内の歩道を歩きながら、いたるところに落ちていたペットボトルや空き缶などのごみを拾いました。参加者は「たくさんのごみが落ちていたことに驚きました。ばい捨てせず、きれいなまちにする意識を持つ人が増えていけばいいですね」と話していました。



中田

9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします

迫



災害に備え地域とともに訓練

佐沼中学校(鎌田鉄朗校長、生徒428人)の地域連携総合防災訓練は10月10日、同校で開かれ、全校生徒と学校運営協議会委員、行政区長など約500人が参加しました。防災訓練は災害時における安全確保と地域との連携を高めるために毎年開催。避難所開設訓練では体育館の床に新聞紙を広げ、居住区作りを体験しました。参加した生徒は「学んだことを忘れずに日頃から災害に備えたい」と、防災への意識を新たにしていました。

知識身に付け健康寿命を延伸

「とよま元気もりもり教室」は10月8日、登米公民館で開かれ、34人が参加しました。とよま元気もりもり教室は、介護予防について学び、地域の健康づくりの担い手を育てることが目的。参加者は感染症予防やバランスの良い食事についての説明と東北文化学園大学の犬塚剛准教授による健康寿命と筋肉についての講話で知識を身に付けました。その後、片足立ちなどの体力測定を通じて、自身の体について理解を深めました。



登米

3歳6カ月健診でむし歯のなかった子どもたち



阿部 翔我くん (追町東表) 及川 夕輝くん (追町錦東) 佐竹 莉緒ちゃん (追町山の上) 佐藤 碧斗くん (追町光ヶ丘東) 千葉 心遥ちゃん (追町光ヶ丘東) 藤原 優奈ちゃん (追町山ノ神) 松永 雛乃ちゃん (追町中江) 三浦あきらちゃん (追町駒木)



中村みのりちゃん (登米町後小路) 高橋 平ちゃん (中田町森六荒谷) 藤村 優斗くん (中田町境) 榎原唯千花ちゃん (中田町茶畑) 伊藤 凜ちゃん (豊里町東二ツ屋) 及川 蒼桜ちゃん (豊里町大曲) 菅原 佑斗くん (豊里町下町) 千葉 希空ちゃん (豊里町下町)



佐々木凱士くん (米山町新町) 菅原 星来ちゃん (米山町土地) 高橋 碧太くん (米山町新町) 千葉 柑奈ちゃん (米山町約場)



千葉 紘くん (石越町第九) 佐々木成洋くん (南方町新高石) 柴田 空虎くん (南方町観沼) 高橋 玲桜くん (南方町平貝)



村川 大輔くん (南方町板倉)

11月中に応募があった子どもたちを掲載しています

歯の健康づくり 大切な乳歯を健やかに

乳歯は生え変わるからと安心してできません。乳歯の奥では永久歯が成長しているため、乳歯の虫歯は永久歯にも影響します。

■仕上げ磨き
子どもは1人では歯をきれいに磨けません。大人の手助けで歯の健康が守られます。

■早期発見
虫歯は初期の段階であれば健康な状態に回復させることもできます。仕上げ磨きの際は、歯の表面が白っぽくないか、歯の溝が茶色になっていないか状態の観察を。

■乳歯の役割
乳歯は、言葉の正確な発音やしっかりかむなど、体の発育に重要な役割を持ちます。また、永久歯が正しい位置に生えるための案内役になります。
【問い合わせ】市民生活部健康推進課(地域保健係)
☎0220(58)2116

いつまでもお元気で

おめでとうございます
祝100歳



佐藤 清さん (南方町・高石)
大正9年10月25日生まれ

南方町高石で生まれた清さんは、第二次世界大戦の兵役後、家業を継いで就農。米作りや畜産に従事し、2人の子どもを育て上げました。普段は、テレビを見たり、家族や近所の人たちとの茶飲み話を楽しんでいたりするなど元気に過ごしています。100歳のお祝い会では「長寿の秘訣は、なんでも食べることが大事ですが、一番は家族の支えのおかげ」とはつきりとした口調で感謝を述べていました。息子の邦彦さんは「普通が一番。いつまでも穏やかに過ごしてほしい」と話していました。

一般向け

子ども向け

PICKUP_04 「ニキ」



夏木 志朋／著
人にばかにされてばかりの高校生、田井中広一が唯一心を寄せるのは美術教師の二本。しかし、広一は二本の裏の顔を知る。交錯する二人の思いの行方は。

PICKUP_05 「ナチュラルおそうじ大全」



本橋 ひろえ／著
効率よくきれいにする掃除法を分かりやすく紹介。汚れ落ちの仕組みを知って、汚れに応じた洗剤を使うと、年末の掃除も簡単に楽しくできます。

PICKUP_06 「あのころ、うちのテレビは白黒だった」



平野 恵理子／著
日本の古き良き時代を振り返ってみましょう。昭和40年代の日本の普通の暮らしが、解説とイラストでよみがえります。懐かしさや郷愁を感じさせる1冊です。

続々新刊が入荷。詳しくは市公式ホームページで

Library Topics

みんなの図書館

利用者の声や図書館のイベントなどをお知らせします

大きな絵本を 楽しんでみませんか

市内図書館(室)では、「大型絵本」を豊富に取りそろえています。「大型絵本」とは、その名の通りとても大きな絵本のこと。通常の絵本を大型化し、大人数でも見やすい形状をした絵本です。開くと幅が1m近くにもなり、おはなし会などでは、その迫力ある大きさが子どもたちに大人気です。

おはなし会での利用はもちろん、家庭でも大きい絵本を広げて、家族で楽しんでみませんか。所蔵状況や詳細は、市公式ホームページの蔵書検索で確認するか、各図書館(室)まで問い合わせください。

PICKUP_01 「こども禅の言葉」



栞野 俊明／著
悩みがあると、困ったり悩んだりして、気持ちがとてもモヤモヤします。仏教の禅の教えには、悩みを解決するヒントがあります。禅の言葉を学んでみましょう。

PICKUP_02 「ぼくちのお風呂やさん」



とよた かずひこ／作・絵
男の子がお風呂でおもちゃの力エルやアヒルと遊んでいると、誰かが一緒に入りたいたい様子でぞいています。仲良くお風呂に入れるかな。

PICKUP_03 「どうしてかぜをひくの？インフルエンザになるの？」



清水 直樹、清水 さゆり／監修、
せべ まさゆき／絵
風邪やインフルエンザってどんな病気かな。病気にかかると、頭やのどが痛くなり、とてもつらくなります。病気の予防について学べる1冊。



■開館時間 午前9時～午後5時
■休館日 毎週月曜、祝日、年末年始など(中田図書館は祝日も開室)
※その他、館内整理など不定期での休館もありますので問い合わせください
■問い合わせ 迫図書館 ☎0220(22)9820
登米図書館 ☎0220(52)5330
中田図書館 ☎0220(34)8081



Dream

ぼくとわたしの夢

Monthly Hot Communication

仙國 陽愛さん

せんごく・ひより 豊里中1年
豊里町・新町

命の重みを感じる仕事

「助産師」になることが私の夢です。この夢を抱いたきっかけは「キャリアセミナー」を受講したことでした。たくさんの方々の職業の中で、医療の分野に助産師という仕事がありました。本やインターネットで詳しく調べてみると、助産師は母と子の命を守り、支えるとても責任のある仕事だということが分かりました。そして生命の誕生という奇跡に立ち会えるということも知りました。

現在、コロナ禍で医療従事者の方々が私たちの命を守るために日々仕事をしていただいているニュースを目にします。助産師になりたいと思うようになってからは、日々のニュースの見方が変わりました。誰かのために頑張ってくれている人がいる。私も将来、そんな大人になりたいです。そのためには、今のうちからしっかり勉強をしたいと思います。そして、たくさんの方に寄り添い、妊婦さんやその家族に笑顔になってもらえるような助産師になりたいです。

Child

わが家のアイドル

Monthly Hot Communication



遠藤 瑠里ちゃん(1歳)

2019年4月16日生まれ
豊里町・浦軒 慎也さんの次女
毎日元気いっぱいの瑠里ちゃん。お姉ちゃんお兄ちゃんとたくさん遊んでたくさん食べて、すくすく成長してね。



千葉 楓華ちゃん(1歳)

2019年9月7日生まれ
米山町・下小路 峻也さんの長女
いつも笑顔でいたずらが大好きな楓ちゃん。これからはすくすく元気に育ってね。



千葉 稀心くん(2歳)

2018年8月25日生まれ
迫町・舟橋 有矢さんの長男
お散歩が大好きな稀心くん。3人のお姉ちゃんからたっぷり愛情をもらって元気に育っています。

Young

まちの若い衆

Monthly Hot Communication

橋 智大さん(26)

たちばな・ともひろ
津山町・横山6区

★身長と血液型 172センチでB型です。

★現在は 津山町の徳寺で僧侶をしています。父でもある住職を補佐するのが主な仕事です。お寺に生まれ、地域の皆さんから「お寺の子」として育てていただき、物心がつくころには、大人になったらお坊さんになりたいと思っていました。駒沢大学仏教学部に進学し、卒業後、神奈川県にある総持寺で修行を積み、2年前に戻ってきました。

★自分の性格 明るいと思います。それと慎重な面もありますね。

★休日は 決まった休みがないのですが、時間があるときは、ネット配信の映画やYouTubeを見ています。

★趣味は ロードバイクです。友達に誘われて始めました。誘われれば、まずはやることにしています。

★理想の女性像 慎重すぎて物事を決めきれないことがあるので、そんな時に背中を押してくれるような方がいいですね。

★今やってみたいこと 旅行です。特に京都が好きで今までに5回は行きました。高校の修学旅行で初めて京都に行き、歴史を感じさせる風景に感動しました。いつか祇園祭にも行ってみたいです。国内でも訪れたことがない場所がたくさんあるので、コロナが落ち着いたら、友達と旅行したいです。

★登米市について一言 修行が終わって戻ってきたときに感じた、安心感が忘れられません。地域の方々が再会を喜んでくれて、皆さんの顔を見て、帰ってきたんだと実感しました。少子高齢化の波を受けてはいますが、にぎわいを絶やさないといいです。



～「わが家のアイドル」を募集～

市内の3歳までの子どもたちを募集しています。家族の記念にいかがでしょうか。投稿お待ちしております。
＜応募方法＞①氏名(ふりがな)・性別②住所③行政区④生年月日⑤電話番号⑥掲載する保護者氏名⑦コメント(50字以内)⑧写真データを添付してください＜応募先＞まちづくり推進部まちづくり推進課広報係
〒987-0511 迫町佐沼字中江二丁目6番地1 Eメール:koho@city.tome.miyagi.jp 電子申請:
<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi/uketsuke/dform.do?acs=2121dolMyHome>

電子申請QRコード





菊地 初雄さん (87)

よしこさん (86)

豊里町・下町
1956(昭和31)年11月入籍

けがが治ったら温泉行こうね

★二人のなれ初めは
【よしこ】仲人だったといこに紹介されだね。今では考えられないかもしれないけれど、結婚式で初めて会ったんだよ。
★お互いの第一印象は
【初雄】仲人さんに聞いてだ通りの娘さんだと思っただよ。なんて聞いてだがは秘密だね。
【よしこ】優しそうな人だと思っただよ。
★結婚当時の思い出は
【初雄】消防団や地域奉仕活動などで留守にすることが多かったけど、文句も言わず、家を守ってくれて感謝してるよ。
【よしこ】夫が消防団員になってからは、火事のたびに農作業も放り出して行ってしまっただよ、それも誇らしがったよ。
★現在の楽しみは
【初雄】二人でデイサービスに行っ、みんなと話語りするのが楽しいね。今、大腿骨を骨折してるから、デイサービスでリハビリもするよ、心も体も落ち着いて、楽になんた。
★夫婦円満のコツは
【初雄】忍耐力を養うこと。けんかほしないようにしてるね。
【よしこ】けんかにはのってこないね。私は言いたいこと全部言うけど(笑)。
★これからしたいことは
【二人】歩けるようになったら、二人で温泉に行きたいね。

One's Home

ふるさとへの思い

「サンマ。あれこれ」

このところ減少の一途をたどるサンマの水揚げが、今年も歴史的大不漁だという。どこで焼くのか、サンマのにおい。立ち上るサンマの煙は、秋を告げる風物詩だ。その煙が勢いを失い、消え去ろうとしている。

のはかりに載せられるサンマは何匹だったのだろう。
当時、渡波や塩竈などから鮮度を保たせながら南方までサンマを運んで来るのは、さぞ大変だっただろう。そのころの南方では、魚に限らず、こうした行商人との取り引きには、なるべく現金を使わずにその代わりに、当たり前とばかりにお米を持ち出すのだった。一升の米に対して、あり余るほどのサンマが農家のおばさんたちの掌中に渡される。一度では食べきれず、残りは腹開きにされ、天日につるされる。おいに誘われ、喜び勇んだハエが周りをうるさく飛び交っていた。



遠藤 繁さん(77)

関東地区
宮城県南方町人会副会長
南方町(須崎)出身

令和の秋。あまたの事情が絡み合い、一尾のサンマがなんと約3千円也。冗談じゃない、このどなたが買うというのだろう。コロナ禍に沈み込む、庶民の食卓を支える強い味方だったはずのサンマ。日本の秋に欠かせない風物詩。サンマの水揚げが悲しいほどの地盤沈下。安くておいしいが売りであるサンマが、いかなる高級魚も遠く及ばない高騰となった。毎年庶民の食卓を潤し、安堵をもたらしたサンマがこのまま、永遠に戻って来ないとなったら大変だ。

おらほの道の駅

道の駅「三滝堂」



「直径10センチを超える特大シイタケはバター醤油ステーキがおすすすめ」と教えてくれたスタッフの皆さん。キノコ類も豊富に取りそろえています。



ずっしりとしたハクサイは鮮度も抜群

今月は、道の駅「三滝堂」の猪股浩美店長にお話を伺いました。
Q 新商品やおすすすめ商品などを教えてください
この時期は、リンゴやハクサイがおすすすめです。ハクサイは、霜にあたると風味と甘みが増し、繊維が柔らかくなると言われています。鍋に使うのもよし、漬物にしても

よし、冬の食卓には欠かせない食材です。
リンゴは、ふじ、サンふじ、ジョナゴールド、シナノスイート、トキ、世界一などさまざまな品種が並びます。甘さの中に程よい酸味があるものや甘みが強く酸味が少ないものなど、食べ比べできるのも、この時期ならではです。
また、今年の8月頃から販売を開始した「生食パン」が人気です。トーストやお好みのジャムをつけて食べるのももちろんですが、何もつけずにそのまま食べてもおいしいと評判です。



しっとり耳まで柔らかい「生食パン」(410円)

Q これから開催されるイベントなどを教えてください
来年の2021年にかけて2021円の福袋を個数限定で販売予定です。登米市の食材やお土産商品を詰め合わせた盛りだくさんなセットになっていきます。ぜひお買い求めください。
【問い合わせ】道の駅「三滝堂」
☎0220(23)7891

まちの文芸

短歌

作品募集!
●1月号は俳句川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、11月30日(月)までご応募ください。作品・氏名には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

熱燗を一本多くかんつける
十五夜の空窓から眺む
栗駒山に吹きつける風さむざむと
樹々冬枯れて初冠雪まぢか
去りゆける友と植えたる「もくせい」の
五年を終えて香り立ちくる
かりの群れつれて来ないで冬將軍
胡瓜もぐ手に息吹きかける
何処までも目が覚めるよに秋の空
二匹の蜻蛉ゆうゆうと飛ぶ

三浦 智恵 (迫)
及川 慎一 (中田)
熊谷たかよ (中田)
沼倉いね子 (中田)
本宮やつの (中田)

登園す孫を見送るバス待つ間
餌場求めて雁の大群
炎天下声援静か球児らは
総てを込めて球を追いきり
終活や山積みされた思いでを
捨てるたびにぞ消えゆく我が身
かりがねは何時の世誰に習いしか
隊列お見事声も賑やか

石崎よしの (米山)
佐々木康子 (米山)
佐々木まさ (石越)
佐瀬 徳 (南方)
三上久美子 (南方)

情報場 Information

掲載している情報は、新型コロナウイルス感染症の影響などに伴い変更になる場合があります。

募集

会計年度任用職員 任用希望者を募集

市は、令和3年度のパートタイム会計年度任用職員の任用希望者を募集します。

【職種】保育士、児童館・子育て支援指導員、幼稚園講師、看護師、准看護師、運転業務員、一般事務員、事務補助員など

※職種ごとの給与や勤務時間などの勤務条件は募集要綱で確認ください。

【募集要綱および登録方法】任用を希望する場合は、登録が必要で、募集要綱および登録申請書は総務部人事課、医療局経営管理課、各総合支所で配布するほか、市公式ホームページからもダウンロードできます。登録申請書に必要な

事項を記入し、総務部人事課、医療局経営管理課、各総合支所に持参するか総務部人事課まで郵送してください(市公式ホームページからも電子申請にて登録可)

※保育士や看護師など、資格が必要な職種を希望する場合は、資格証の写しも添付してください。

【登録受付】12月1日(火)から登録受付を開始

※令和3年4月から任用を希望する場合は、12月28日(月)までに登録してください(郵送の場合は必着)

【任用方法】任用者は、登録された人の中から選考し決定します

【申し込み・問い合わせ】総務部人事課(給与厚生係)

〒987-0511 / 登米市 迫町佐沼字中江2-6-1
☎ 0220(22)2145

夜間納税相談窓口 (11月・12月分)

【日時】11月26日(木)
12月24日(木)
いずれも午後8時まで

【場所】総務部税務課
(迫庁舎1階)

【問い合わせ】
総務部税務課(徴収対策係)
☎ 0220(22)2169

税務申告相談の任期付職員を募集

【職種・採用人員】税務申告相談 9人程度

【任期】令和3年1月4日(月)～3月31日(水)

【受験資格】学校教育法による高等学校卒業業者および同等以上の経歴を持つと認められ、公務員などで通算3年以上、税務申告相談などの業務経験がある人

【受験申込書などの配布】申込書、職務経歴書および試験実施要項は、平日の午前8時30分から午後5時15分まで、総務部人事課および税務課で配布しています。市公式ホームページからもダウンロード可能です。郵便で請求する場合は、封筒の表に「任期付職員(税務申告相談)受験申込書等請求」と朱書きし、宛先を明記した120円切手が貼ってある返信用封筒(A4版が入る大きさ)を必ず同封してください

【受付期限】11月27日(金)までに申込書を提出してください(郵送の場合は必着)

※申込受付は、平日午前8時30分から午後5時15分まで

【試験日程】▼1次試験Ⅱ書類審査 ▼2次試験Ⅱ面接試験

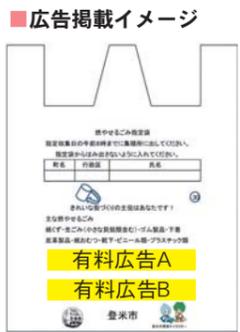
(12月中旬予定)
※2次試験は1次試験合格者のみ対象

【申し込み・問い合わせ】総務部人事課(人事研修係)

〒987-0511 / 登米市 迫町佐沼字中江2-6-1
☎ 0220(22)2145

市ごみ指定袋に広告を掲載できます

家庭で使用する、燃やせるごみ指定袋(大)に掲載する広告主を募集します。



■ 広告内容	
掲載枚数	約200枚(販売枚数により変動あり)
掲載サイズ	1枚の大きさ 縦70mm × 横250mm、1色刷り(赤色)
掲載枚数	2枚
掲載料	1枚15万円

【対象者】市内に事業所、店舗などを置き、その業務内容が明確な法人など

【掲載期間】令和3年6月～4年6月販売分

※期間に変更になる場合があります

※流通品のため、一斉には販売できません

【応募期間】11月24日(火)～12月15日(火)

※申込受付は、平日午前8時30分から午後5時15分まで

※掲載を希望する広告主が掲載枠数を超えた場合は抽選により決定します

【申し込み・問い合わせ】環境事業所クリーンセンター

☎ 0225(76)0102

※募集内容や応募書類、提出方法などの詳細は市公式ホームページをご覧ください

登米市母子福祉連合会の会員を募集します

登米市母子福祉連合会は、市内の母子および寡婦家庭の福祉の増進を図ることを目的に活動しています。

同じ立場の人たちと仕事や子育て、生活などのいろいろな悩みの語り合いや情報交換ができます。新しい仲間をお待ちしています。

【問い合わせ】登米市母子福祉連合会

▼八木しみ子
☎ 090(8612)6910

▼菅原暢子
☎ 090(8423)1363

▼五十嵐睦子
☎ 080(3197)7210

佐沼税務署で 非常勤職員を募集

【募集内容】一般事務、受付事務、電話交換、データ入力、パソコン操作などの補助事務

【勤務地】佐沼税務署

【応募資格・経験】高卒程度、パソコン操作

【採用方法】面接試験(履歴書は担当者へ郵送または持参)

※応募者が一定人数になり次第、受付を終了

※面接日は担当者から連絡

【時給】900円

【雇用期間】令和3年2月1日(月)～3月31日(水)

※雇用期間や勤務時間などは仕事内容により異なります。詳しくは問い合わせください

【申し込み・問い合わせ】佐沼税務署総務課

☎ 0220(22)2501

※音声ガイダンスが流れますので「2番」を選んでください

石巻高等技術専門学校 パソコンの基礎を習得

令和2年度離職者等再就職訓練ⅠT基礎科

パソコンの基礎知識からビジネスの現場に必要な基本的知識と技能を習得し、採用時に重視されるコミュニケーション能力の向上を目指します。

【訓練内容】パソコンを活用した事務処理技能の習得

【対象者】ハローワークの受講指示、受講推薦、支援指示を受けられる人

【募集期間】11月24日(火)～12月25日(金)

【募集人数】15人

【面接選考日】令和3年1月14日(木)

【選考場所】石巻高等技術専門学校

校

【訓練期間】令和3年1月29日(金)～4月28日(水)

【訓練場所】JMTTC 佐沼教室

【授業料】無料(テキスト代約1万2千円)

【問い合わせ】石巻高等技術専門学校

☎ 0225(22)1719

働きながら自宅で学ぶ
通信制大学・大学院

放送大学は、働きながら大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、幅広い世代、職業の人が学んでいます。

心理学、福祉、経済、歴史、文学、情報、自然科学など幅広い分野から受講できます。

【対象者】▼15歳以上Ⅱ1科目から学習する履修生▼18歳以上で大学入学資格所有Ⅱ全科履修生として入学可

【募集期間】▼第1回Ⅱ11月26日(木)～令和3年2月28日(日)▼第2回Ⅱ3月1日(月)～16日(火)

【問い合わせ】放送大学宮城学習センター

☎ 022(224)0651

※詳細はホームページをご覧ください

DAIYU HOME CENTER 登米中田店

毎月8のつく日 8日 18日 28日 + 毎週土曜日

税抜3,000円以上お買上げで

ポイント 5倍

お正月飾り各種 大量入荷しました!!

ダイユー・イト 登米中田店案内 広告

ウジエスーパーさん 398
マツモトキヨシさん 346
薬王堂さん 4
ケーズデンキさん 200
JAみやぎさん 201
ヨープさん 201

ヨークタウン内ダイユー・イト登米中田店

登米市立宝江小学校

宮城県登米市中田町石森字駒産400
TEL 0220-23-9433

営業時間 あさ8時～よる8時まで

確かな技術で まかせて安心 広告

電気工事・オール電化工事・電気通信工事
太陽光発電設備工事・IH、エコキュート・消防設備工事・点検

有限会社 五島電機

登米市中田町宝江新井田字荒谷60-1
TEL.0220-34-3349 FAX.34-5792

エネルギーに夢をのせて 広告

KUMANEN 熊谷燃料住設株式会社

災害時安定供給施設

■ アクアショップ KUMANEN ■ BFC クマナン ■ 【関連企業】
■ コインランドリー 清潔空間 ■ なごみの家きらり ■ 網ネオウィング

TEL.0220-22-2415(代) FAX.0220-22-6732
http://www.kumanen.jp E-mail:info@kumanen.jp

登米市は自主財源を確保するため、広報のために有料広告を掲載しています。

冬休みは沖縄県を舞台に感動体験

全国から集まった仲間と交流し、助け合う楽しさや大切さを学びます。自分からチャレンジする一歩を踏み出せるような体験プログラムを準備しています。

単に野外活動体験をするのではなく、参加者の成長に応じて、より効果的な体験ができるような内容になっています。

■ **沖縄アドベンチャースクールわくわく海遊び**

【期間】12月26日(土)～30日(水)の4泊5日

【場所】沖縄県南城市、那覇市

【定員】20人(先着順)

【対象】小学3～中学3年生

【内容】ハーリー船体験、星空観察、鍾乳洞見学、伝統料理体験など



【問い合わせ】国際青少年研修協会

☎ 03(6825)9721
info@isk.or.jp

劇団ドリーム☆キッズ 新団員募集

劇団ドリーム☆キッズは登米市を中心とした、小中高生で構成するミュージカル劇団です。

毎年、登米祝祭劇場大ホールで実施している公演は地域の皆さんによって支えられています。来年度の公演に向けて団員を募集しています。



【対象】登米市内および近隣市町の小、中、高校生

※令和3年4月入学児も可

【会費】月3千円(兄弟・姉妹の割引あり)

【練習】月1～2回程度

【応募方法】登米祝祭劇場に備え付けの申込用紙に必要事項

令和3、4年度の入札参加資格申請を受け付けます

「競争入札参加資格の審査定時申請の受け付け」

市が発注する工事や業務などの競争入札に参加を希望する場合、資格審査を受け、競争入札参加資格者名簿への登録が必要になります。要領などを確認して、申請してください。

実施団体名	整備した備品
横山地区コミュニティ推進協議会	テント、のぼり旗など
浅水コミュニティ運営協議会	綿菓子機、ステージセット、テントなど



【問い合わせ】まちづくり推進部市民協働課(市民活動支援係)

☎ 0220(22)2173

情報広場

ねんきんだより

国民年金保険料は全額社会保険料控除の対象

国民年金保険料は、社会保険料控除としてその年の課税所得から控除されます。令和2年1月1日から12月31日までに納付した国民年金保険料は、所得税および住民税の申告において全額が社会保険料控除の対象です。令和2年中の納付であれば、過年度分の保険料や追納された保険料も控除の対象になります。

社会保険料控除を受けるためには、年末調整や確定申告の際に、保険料を支払ったことを証明する書類の添付が必要です。このため、日本年金機構から「社会保険料(国民年金保険料控除証明書)」が対象

者宛てに発送されます。控除証明書が届いたら、大切に保管し、年末調整や確定申告の際に使用してください。家族の国民年金保険料を納付した場合は、ご自身の国民年金保険料に加え、その保険料についても控除が受けられます。

国民年金制度は、税法上とても有利なだけではなく、老後はもちろん不慮の事故など万一のときにも心強い味方となる制度です。保険料の納め忘れのないよう早めの納付を心掛けてください。

【発送時期】①9月30日までに納付/11月上旬 ②12月31日までに納付/令和3年2月上旬

【問い合わせ】

▼ねんきんダイヤル ☎ 0570(003)004

▼市民生活部国保年金課(年金医療係) ☎ 0220(58)2166

お知らせ

宝くじの助成事業で備品などを整備

市内コミュニティ組織などの2団体が「令和2年度コ

サポートチーム七夕代表)

【相談料】無料

※事前に予約が必要です

【申込み・問い合わせ】登米保健所(母子・障害班)

☎ 0220(22)6118

下請け事業者へのしわ寄せ防止に向けて

働き方改革による大企業、親事業者の長時間労働削減などの取り組みにより、下請など中小事業者に対する適正なコスト負担を伴わない短納期、急な仕様変更などの「しわ寄せ」を生じさせている場合があります。

大企業、親事業者と下請けなど中小事業者は共存共栄という認識の下、長時間労働につながる短納期発注や発注内容の頻繁な変更を抑制し、発注の平準化、発注内容の明確化を進め、対価は労働費上昇を反映しましょう。

高次脳機能障害の家族交流会

交通事故などにより高次脳機能障害がある人の家族を対象に、日頃抱えている悩みや思いを語り、お互いを支え合う関係をつくっていく場として交流会を開催します。

【日時】12月4日(金)午後2時～4時

【場所】登米保健所

【アドバイザー】清野智賀子氏(みやぎ高次脳機能障害ピア



「しわ寄せ」防止特設サイト

【問い合わせ】宮城労働局(雇用環境・均等室)

☎ 022(299)8844

<p>株式会社 清建</p> <p>環境プロバイダ</p> <p>本社/〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼南駒木袋212-3 TEL.0220-22-7085 FAX.0220-22-7658</p>	<p>仙台(営)/〒989-3127 宮城県仙台市青葉区愛子東三丁目7番2号 TEL.022-799-7213 FAX.022-799-7214</p> <p>南三陸(営)/〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷大船沢313 TEL.0226-46-1027 FAX.0226-46-2122</p> <p>URL www.kkseiken.co.jp E-mail info@kkseiken.co.jp</p>
<p>有限会社 清建物流</p> <p>TEL.0220-22-9430 FAX.0220-21-1535</p> <p>本社/〒987-0512 宮城県登米市迫町森字平柳14-1</p>	<p>有限会社 リースキン宮城</p> <p>TEL.0220-22-3431 FAX.0220-22-3495</p> <p>〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字下田中53番地8</p>
<p>厚生労働大臣許可 指定居宅サービス事業所</p> <p>有限会社 はさま看護婦・家政婦紹介所</p> <p>すずらん託児室・保育園</p> <p>TEL.0220-22-8064 FAX.0220-23-2728</p> <p>〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼中江2丁目21(中江ビル) 【すずらん託児室】TEL.0220-22-7755</p>	

株式会社 **刺蒸くまがい** ...働く会社... 法事・宴会

中田中学校通り **0220-34-5002**

葬儀からご法要までの一環システム

登米市内ホールは5ヶ所ございます。(お選びいただけます)

24時間受付 0220-34-4856(代表)

株式会社 **誠香社**

登米市は自主財源を確保するため、広報のために有料広告を掲載しています。

12月の納税

市県民税・・・4期
国民健康保険税・・・7期
介護保険料・・・7期
後期高齢者保険料・・・6期
忘れずに納めましょう
納税は便利な口座振替で

納期限/12月28日(月)

登米市の人口・世帯数

(令和2年10月末現在)

地区	世帯数	人口(人)		
		男	女	計(前月比)
迫	7,556	9,657	10,200	19,857 (▲42)
登米	1,776	2,249	2,423	4,672 (▲6)
東和	2,313	2,969	3,049	6,018 (▲7)
中田	5,224	7,602	7,883	15,485 (14)
豊里	2,131	3,156	3,207	6,363 (4)
米山	2,844	4,387	4,476	8,863 (▲7)
石越	1,559	2,319	2,335	4,654 (▲11)
南方	2,736	4,132	4,284	8,416 (5)
津山	1,135	1,509	1,638	3,147 (▲8)
合計	27,274	37,980	39,495	77,475 (▲58)

※上記人口・世帯数には外国人住民も含まれています。

市内の交通事故発生状況

(令和2年10月末現在) ※佐沼・登米警察署調べ

	R2	R1	増減数
人身事故発生件数	101件	124件	▲23件
死者数	3人	3人	0人
負傷者数	123人	153人	▲30人
物損事故発生件数	969件	1,107件	▲138件

※R2年1月からの延べ件数(前年同時期と比較)

警察署からのお知らせ

夕暮れ時は、周囲が見えにくくなるので自動車や自転車は早めにライトを点灯し、スピードを抑え、横断歩行者などの早期発見に努めましょう。
また、横断歩行者を最優先し、優しさといわりのある思いやり運転を励行しましょう。

市内放射線の測定結果

測定日:令和2年11月1日 単位:マイクロシーベルト

測定地点	測定結果	天気
消防署	0.05	曇り
消防署北出張所(石越)	0.05	曇り
消防署東出張所(東和)	0.04	曇り
消防署津山出張所	0.04	曇り
消防署南出張所(豊里)	0.04	曇り
消防署西出張所(南方)	0.04	曇り

空間放射線量の測定結果は市公式ホームページに掲載しています。

ハローワークはさま発行求人情報
ハローワークはさまざま発行している求人情報を掲載
掲載日は祝日を除く毎週火曜日の午後3時です

出張相談日程・場所

開催日	時間	場所
12/8 ㊟	10:00~16:00	錦織公民館
12/22 ㊟		上沼ふれあいセンター
1/12 ㊟		吉田公民館
1/26 ㊟		西郷公民館

☎ 0220(23)8610
☎ 0220(23)8665

一人で抱え込まないで 多重債務者無料法律相談

【日時】12月18日(金)午後1時

「職務経歴書記載ポイントや志望動機の書き方がわからない」「違う業種、仕事に就きたい」「面接時の対応を確認したい」など、就職や仕事についての悩みを相談ください。

【日時】毎週月～金曜/午前10時～午後4時

就職・仕事の悩み無料相談 みやぎ北若者サポステ

「職務経歴書記載ポイントや志望動機の書き方がわからない」「違う業種、仕事に就きたい」「面接時の対応を確認したい」など、就職や仕事についての悩みを相談ください。

【日時】毎週月～金曜/午前10時～午後4時

女性のための面接相談、 こころのケア講座を開催

DV(ドメスティック・バイオレンス)や離婚、虐待、セクハラ、家族の悩みことなど、人間関係で悩む女性のための面接相談と講座を開催します。一人で悩まないで、気軽に相談ください。相談は無料です。秘密は守ります。

【日時】12月2日(水)午後1時30分～4時

障がい者の自立に向けて 「こころ」相談を開設

生活や仕事の悩み、心配事などを専門知識を持つ支援員に相談できます。相談は無料です。秘密は守ります。

【日時】12月22日(火)①午前9時30分～②午前11時～③午後1時30分～④午後3時～

分類	メニュー名	メニューの概要(説明、解説したいポイントなど)
健康・福祉	健康なまちづくり	元気とめ！健康づくり宣言について
	よく分かる介護保険と高齢者の福祉サービス	介護保険制度全般(介護保険料と利用料、介護サービスの利用方法、地域包括支援センターの役割)・高齢者福祉サービスについて
生活・環境	循環型社会の構築に向けた市の取り組み	ゴミの減量化・資源リサイクル
	マイナンバーカード	マイナンバーカードの仕組み、申請について
市政・まちづくり	税などの賦課	市税、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料、介護保険料の賦課の仕組みについて
	「うまし、たくまし、登米市」～シティプロモーション事業の取り組みについて紹介	「うまし、たくまし、登米市」で表す登米市の魅力を、市内外に発信するシティプロモーション事業の取り組みについて紹介
	市民と協働のまちづくり	市民と行政による協働のまちづくりについて
産業	市の農業・物産振興・アグリビジネス支援	農地中間管理事業、認定農業者制度、ビジネスチャンス支援事業、6次産業化などのアグリビジネスについて

照明器具の清掃や交換で エネルギー節約に

一般的な蛍光灯の寿命は、7千時間程度です。夜間数時間の使用で約2年。昼間も使用する場合は約1年が目安です。蛍光灯の両端が黒ずんできたものは取り換え時期の場

結婚相談会

【日時】12月20日(日)午前10時～10時45分、午前11時～11時45分、午後1時15分～2時、午後2時15分～3時

※要予約(当日でも可)

【場所】迫にぎわいセンター研修室3(迫町佐沼字西佐沼70)

【相談料】無料

【対象】結婚に関することで悩んでいる人(本人、家族など)

※年齢・性別・未婚既婚は問いません

※結婚相談会は、結婚相手を紹介するものではありません

生活や仕事などの悩み 相談に応じます

生活や仕事の悩み、心配事などを専門知識を持つ支援員に相談できます。相談は無料です。秘密は守ります。

【問い合わせ】そ・えーる登米

職員が地域に出向きます 出張市役所のご利用を

市民の皆さんが主催する集会や会合などに市職員が出向き、市の政策や事業について説明します。職員派遣の費用はかかりません。

【利用について】市内の団体またはサークルで、おおよね15人以上の参加が見込まれる場合(政治活動や宗教活動、営利活動を目的とする団体を除く)

【開催時間】年末年始を除く午前9時30分から午後9時までのうち、時間は30～90分とします

会場】申込団体で会場を準備 してください。費用が発生する 場合は、申込者負担となります。

【申込方法】まちづくり推進部まちづくり推進課(迫庁舎2階)に備え付けの申込書(市公式ホームページからもダウンロード可)に必要事項を記入し、開催希望日の2週間前までに申し込みください

※詳しくは市公式ホームページをご覧ください

【申し込み・問い合わせ】まちづくり推進部まちづくり推進課(広報係)

☎ 0220(22)2147

加入していませんか 林業退職金共済制度

林業退職金共済制度(林退共制度)は、林業従事者のための退職金制度です。

【掛金について】
税法上、法人は損金、個人企業では必要経費になります
掛金の一部を国が免除します

▼雇用事業主を代えても退職金は通算して計算されます

■事業主は
▼共済証紙は労働日数に応じた適正に貼付してください
▼共済手帳を所持している従事者の退職時は、退職金の請求を指導してください
※詳しくは問い合わせください

【問い合わせ】勤労者退職金共済機構林業退職金共済事業本部

☎ 03(6731)2889

相談

合があります。取り換えはLED照明が高効率です。また、照明器具は清掃することで20～30%明るくなります。年末の大掃除の際は、照明器具も清掃することで、エネルギーが節約され、省エネにつながります。

【問い合わせ】東北電気保安協会(佐沼事業所)

☎ 0220(22)4437

12月4～10日は 人権週間です

法務省と全国人権擁護委員連合会は、毎年12月4～10日を入権週間と定め、人権尊重思想の普及高揚のため活動しています。

人権について困ったことがあれば、一人で悩まず相談ください。

※人権週間以外の期間も相談可能。個人情報守られますので安心して相談ください

【受付時間】平日の午前8時30分から午後5時15分まで

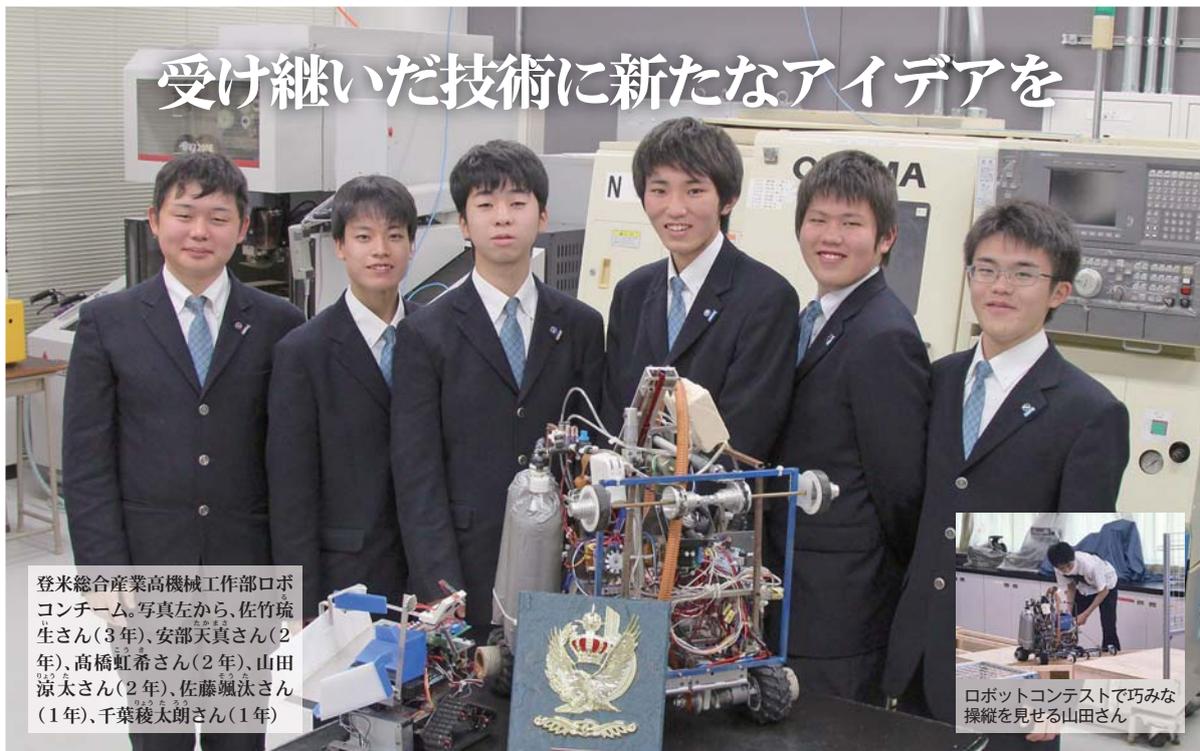
【問い合わせ】仙台法務局登米支局

☎ 0220(52)2070

ときめき人

Tokimeki bito

受け継いだ技術に新たなアイデアを



登米総合産業高機械工作部ロボコンチーム。写真左から、佐竹琉生さん(3年)、安部天真さん(2年)、高橋虹希さん(2年)、山田涼太さん(2年)、佐藤颯汰さん(1年)、千葉稜太郎さん(1年)

ロボットコンテストで巧みな操縦を見せる山田さん

宮城県の高校生が対象のロボットコンテストは9月19日、石巻工業高で開かれ登米総合産業高機械工作部ロボコンチームが2連覇を成し遂げた。

目標は県2連覇、そして全国大会予選突破だったが、6月2日、新型コロナにより全国大会の中止が決定。インターハイや甲子園も中止、悔しいのは自分たちだけじゃないと言い聞かせ前を向いた。

6月中旬、県大会が開催されることが決まり、すぐさまロボット製作に取り掛かった。競技はコース上のアイテムをロボットを使って指定箇所に搬送するもので、2回走行し、どちらか得点が高い方で順位が決まる。高得点エリアに置く性能と足回りに重点をおき、意見を出し合い作り上げた。

迎えた大会当日、部品トラブルで競技直前まで

整備が続く。操縦は2年の山田涼太さんが担当。緊張からか1走目終了時点で下から2番目の順位。全校の走行を見ていたチーム唯一の3年の佐竹琉生さんは「うちのロボットは優勝できるスペックがある。練習だと思って気軽にやってこい」と山田君を送り出した。その言葉は自信となり1走目とは別人のような操縦で一番高い場所の高得点エリアにアイテムを乗せ、会場を沸かせた。終わってみると2位に大差をつけての圧勝だった。

「あきらめずチームで乗り切る団結力が優勝につながった」と顧問の相沢牧彦先生は分析する。次の目標は、県3連覇からの全国大会予選突破。先輩たちが残してくれた技術に新たなアイデアを。ものづくりに懸ける若者の今後が楽しみだ。

編集後記

▼今号の特集「もくもくと生きる」では、約50人もの関係者に取材や資料提供など、たくさんのご協力をいただきました。旧津山町民の思いが形になり完成した「もくもくランド」。多くの人の思いが、広報紙を通して皆さんに伝われば幸いです。(三浦)

▼今年は新型コロナの影響で市内のイベントがことごとく中止。そのため取材が少なかったのですが、今号はたくさんの方の取材する機会に恵まれました。取材三昧の日々を送っていたら、あっという間に12月。皆さん体調管理に気を付けて、温かくしてお過ごしください。(小野寺)

▼寒さが一段と厳しくなり、近隣から初雪の便りが届き始めました。まだまだ冬の中間点、これから一層厳しい寒さがやって来ます。日ごとに増す寒気と共に、いよいよ押し迫る暮れ。すぐそこまで来ている1年の締めくくりに向けて、やり残しの無いようしっかりと再確認を。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

